

# 南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

風力発電事業に伴う遺跡発掘調査

南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

2020.3

岩手県洋野町教育委員会

# 南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

風力発電事業に伴う遺跡発掘調査



## 序

洋野町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市、東は太平洋に接し、海と高原に囲まれた自然豊かな町です。平成18年1月1日、旧種市町と旧大野村が合併して洋野町が誕生しました。

町内には現在233箇所の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務あります。

本報告書は、風力発電事業に伴う南玉川Ⅰ遺跡及び小田ノ沢Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査の報告をまとめたものです。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

令和2年3月

洋野町教育委員会

教育長 林 剛敏

## 例　　言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市 11 地割地内に所在する南玉川 I 遺跡、及び種市第3地割地内に所在する小田ノ沢 II 遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、風力発電所建設に伴う事前の緊急発掘調査であり、調査に係る費用は事業主にご負担いただいた。事業主は次のとおりである。  
日本風力開発株式会社
3. 遺跡の岩手県遺跡台帳番号は下記のとおりである。  
南玉川 I 遺跡 : IF68-0395  
小田ノ沢 II 遺跡 : IF78-1351
4. 本遺跡の調査は、洋野町教育委員会が主体として実施したもので、株式会社アーキジオが調査支援業務を行った。  
調査責任者：千田政博（洋野町教育委員会）  
調査員：田中寿明 調査補助員：山田千種（株式会社アーキジオ）
5. 本書の編集・構成は田中が行い、執筆については第 I ・ II 章を千田、南玉川 I 遺跡第 IV 章を株式会社 パレオ・ラボ、その他を田中が担当した。
6. 外部委託業務は下記のとおりである。  
試料分析：株式会社 パレオ・ラボ  
基準点測量：株式会社北山測量設計
7. 本調査及び報告書作成等に際して、下記の方々からご指導、ご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。  
(五十音順、敬称略)  
長尾正義、成田滋彦、福田友之、古屋敷則雄
8. 発掘調査作業及び報告書作成作業において、下記の方々にご協力いただいた。(五十音順、敬称略)  
相野美香、久慈道美千子、黒坂繁幸、黒坂誠吉、館野隆、横石貴子、畠川三重子、村田千鶴、横山香、有限会社薩摩建設
9. 第 II 章「洋野町内の遺跡」については、平成 31 年（2019 年）4 月時点での「岩手県遺跡台帳」に基づいたものに加筆・修正したものである。
10. 土層の観察は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。
11. 引用・参考文献については文末に収めた。
12. 調査で得られた出土遺物・諸記録等については、洋野町教育委員会で保管・管理している。

## 目 次

序  
例 言  
目 次  
凡 例

I. 調査に至る経過.....	2
II. 洋野町内の遺跡.....	3
南玉川 I 遺跡	
I. 遺跡の概要.....	20
II. 調査の概要.....	20
III. 遺跡の土層序.....	21
IV. 深掘土層のテフラ分析.....	23
1. 試料と方法 .....	23
2. 結果 .....	23
3. テフラの対比 .....	25
V. 調査の成果.....	28
1. 検出された遺構について .....	28
2. まとめ .....	33
小田ノ沢 II 遺跡	
I. 遺跡の概要.....	44
II. 調査の概要.....	44
III. 遺跡の土層序.....	45
IV. 調査の成果.....	47
1. 検出された遺構について .....	47
2. まとめ .....	48

報告書抄録

## 表

第1表 町内の遺跡一覧 (1).....	10	第1表 町内の遺跡一覧 (4).....	13
第1表 町内の遺跡一覧 (2).....	11	第1表 町内の遺跡一覧 (5).....	14
第1表 町内の遺跡一覧 (3).....	12	第1表 町内の遺跡一覧 (6).....	15

### 南玉川 I 遺跡

第1表 テフラ試料の詳細.....	23	第3表 4 φ筒残渣中の鉱物組成.....	24
第2表 テフラ試料の湿式篩分け・重液分離 の結果.....	24		

## 図 版

第1図 遺跡位置図.....	1	第2図 町内遺跡位置図.....	9
----------------	---	------------------	---

### 南玉川 I 遺跡

第1図 遺跡範囲図.....	19	第5図 遺構配置図.....	27
第2図 深掘土層序.....	22	第6図 土坑SK1・SK2.....	28
第3図 深掘南東壁面試料の鉱物組成・火山ガラス の分布図.....	24	第7図 溝状土坑TP1・TP2.....	30
第4図 各試料の火山ガラスの屈折率測定結果.....	25	第8図 溝状土坑TP3・TP4.....	31
		第9図 ピットSP1・SP2.....	32

### 小田ノ沢 II 遺跡

第1図 遺跡範囲図.....	43	第3図 遺構配置図.....	46
第2図 深掘土層序.....	45	第4図 溝状土坑TP1.....	47

## 写真図版

### 南玉川 I 遺跡

写真図版1 4 φ残渣中のテフラ粒子の 偏光顕微鏡写真.....	26	写真図版5 調査区全景(3).....	37
写真図版2 遺跡遠景・近景.....	34	写真図版6 深掘土層序・土坑SK1・SK2.....	38
写真図版3 調査区全景(1).....	35	写真図版7 溝状土坑TP1～TP3.....	39
写真図版4 調査区全景(2).....	36	写真図版8 溝状土坑TP4・ピットSP1・SP2.....	40

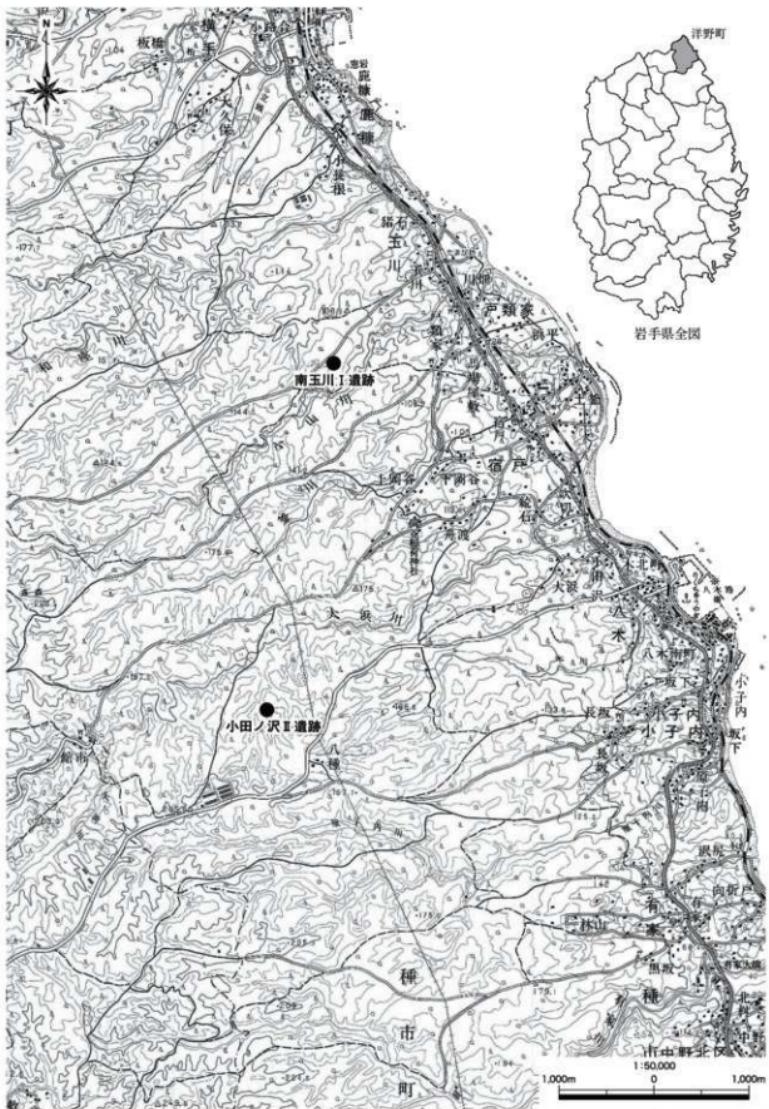
### 小田ノ沢 II 遺跡

写真図版1 遺跡遠景・近景.....	49	写真図版3 調査区近景.....	51
写真図版2 調査区全景.....	50	写真図版4 深掘土層序・溝状土坑TP1.....	52

## 凡　例

1. 遺構図版の縮尺は、すべて1/60で統一した。
2. 本書で使用する遺構表示記号は、下記のとおりである。  
TP：溝状土坑 SK：土坑 SP：ビット
3. 深掘土層序にはローマ数字を、遺構内の層位には算用数字を用いた。
4. 本報告書に収載した遺構配置図、遺構実測図等に付した方位は、国家座標第X系による座標北を示す。
5. 第1図 遺跡位置図は国土地理院発行の50,000分の1の地形図、第2図 町内遺跡位置図には、50,000分の1 洋野町管内図を複写して使用した。
6. 南玉川I遺跡第1図及び小田ノ沢II遺跡第1図の遺跡範囲図は国土地理院発行の50,000分の1の地形図を複写して使用した。





第1図 遺跡位置図

## I. 調査に至る経過

本発掘調査は、日本風力開発株式会社による風力発電事業に伴い実施されたものである。事業計画では洋野町内の31箇所に風車を建設するもので、平成30年9月6日、事業者から洋野町教育委員会教育長あてに事業地の埋蔵文化財包蔵地の所在について照会があり、事業地内の掘削面積や建設数を踏まえ、分布調査が必要であるとの回答をした。その後同年10月5日、分布調査の依頼書が提出され、事業地を確認したところ、地形等の状況から全ての建設予定地について埋蔵文化財確認試掘調査が必要であるとの回答をした。

平成31年3月29日、事業者より風車建設予定地の風車番号3号機、7号機、11号機、16号機、17号機の5基分を第1次試掘調査として、試掘調査依頼書が洋野町教育委員会教育長あてに提出され、平成31年4月22日～令和元年6月18日まで、各風車建設工事個所の7,000m<sup>2</sup>を対象に試掘調査を実施した。その後、令和元年7月18日、第2次試掘調査として風車番号18号機、20号機、23号機、28号機、30号機の5基分の試掘調査依頼書が提出され、令和元年7月26日～8月23日まで試掘調査を実施した。調査の結果、3号機、7号機、11号機、16号機、18号機、23号機の風車建設予定地から遺構、遺物が検出された。

調査後、事業者から風力発電所建設の前に、7号機並びに23号機の建設地に風況観測塔を設置したいとの協議があった。7号機の建設予定地は南玉川Ⅰ遺跡、23号機の建設予定地は小田ノ沢Ⅱ遺跡として、令和元年8月13日付け、教生第520号にて岩手県教育委員会より新規登録の通知を受けていたため、令和元年8月29日、事業者より両遺跡内の工事について、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出に係る書類が提出された。同年8月30日、教生第3-192号にて岩手県教育委員会教育長より発掘調査を実施する旨の通知がされた。同日、事業者から提出された埋蔵文化財発掘調査の依頼書を受理、令和元年9月24日より南玉川Ⅰ遺跡、小田ノ沢Ⅱ遺跡の本発掘調査に着手し、同年10月23日まで実施した。

## II. 洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、令和2年（2020）1月現在、岩手県遺跡台帳に233遺跡が登録されている。平成23年（2011）以降、三陸沿岸道路建設や再生可能エネルギー事業等に係る試掘調査により新規発見の遺跡が増加している。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成16年度（2004）の角の浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区の分布調査のみである。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するものと想定される。町内の発掘調査は岩手大学草間俊一教授により昭和30年（1955）から昭和36年（1961）にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われたのが最初であるが、その後平成25年度（2013）までの調査事例は数件にとどまっていた。平成26年度（2014）以降、三陸沿岸道路建設等に伴う本発掘調査により調査事例が急激に増加したもの、町内に所在する遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡として、中野地区的尺沢遺跡（222）が登録されている。同遺跡は令和元年度、久慈地区汚泥再生処理センター建設工事に係る洋野町教育委員会による発掘調査で、ナイフ形石器が出土している。その他にも「角川日本地名大辞典3」には、「鉄山遺跡」、「有家遺跡」と未登録遺跡の記載があり、いずれも高館火山灰層最上部から旧石器が発見されたとある。今後の埋蔵文化財調査において、高館火山灰層については注視していくなければならない。

縄文時代の遺跡数は、全体の7割以上を占める。草創期の遺跡として板橋Ⅱ遺跡（221）がある。同遺跡は三陸沿岸道路建設事業に伴い、公益財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下岩手県埋蔵文化財センターに略称する）による令和元年度（2019）の調査において、爪形文土器が出土している。爪形文がV字状に並ぶことから、黄檗遺跡（八戸市南郷区）で出土した爪形文土器に近いものとみられる。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、宿戸遺跡（199）、中野城内遺跡（203）、尺沢遺跡（222）などがある。旧石器が出土した尺沢遺跡では、日計式の押型文土器が出土し、同時期とみられる石器も出土している。また、岩手県埋蔵文化財センターによる平成6年度（1994）のゴッソー遺跡発掘調査では日計式土器、魚骨回転文土器等が出土している。

貝殻文の土器が出土した事例は古く、昭和36年（1961）の草間教授による大宮遺跡の発掘調査時に出土したものが、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器と報告がある。中野城内遺跡では、三陸沿岸道路建設事業に伴い岩手県埋蔵文化財センターによる平成29年度（2017）の調査で、早期とみられる土坑、白浜式土器が出土している。

前期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）、小田ノ沢Ⅰ遺跡（200）などがある。ゴッソー遺跡は早期～晚期の縄文土器が出土しているが、前期初頭の遺物量が多く、特に平成6年度（1994）の岩手県埋蔵文化財センターによる本発掘調査で出土したコンバス文土器や押型文土器は岩手県で初めての出土とみられる。同遺跡も昭和36年（1961）に草間教授により発掘調査された遺跡で、縄文時代前期の土器を中心に縄文時代早期の土器、弥生時代の土器、土師器片、石器を採集したとの報告がある。なお、上のマッカ遺跡は昭和36年（1961）草間教授の調査により、貝塚が存在する可能性が指摘されている。

中期の遺跡として、千敷平遺跡（4）、ゴッソー遺跡（20）上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）などがある。平成27年度（2015）洋野町教育委員会によるゴッソー遺跡の本発掘調査では、中期初頭の堅穴住居跡が1軒発見され、三重の入れ子にした土器埋設炉と単体の土器埋設炉が並列した状態で出土した。その入れ子の土器埋設炉の中からヒエの胚乳が検出されている。

後期の遺跡として、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿野遺跡（196）、下向Ⅰ遺跡（202）、続石遺跡（213）、サンニヤⅢ遺跡（218）などがある。

町内の縄文時代の遺跡で、後期前葉に位置付けられる遺跡が一番多く、その中でも溝状土坑（陥し穴状構造）と後期前葉の土器が出土する遺跡が多数を占める。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成11年度（1999）から平成25年度（2013）の間、延べ6箇年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土構造、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前葉に位置付けられる。上水沢Ⅱ遺跡は平成12年度（2000）に岩手県埋蔵文化財センターにより本発掘調査が行われ、後期前葉から後葉の堅穴住居跡が11軒発見された。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴い発掘調査が行われた遺跡で、後期に属する堅穴住居跡が検出された遺跡は、上のマッカ遺跡（43）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿塚遺跡（196）、鹿塚浜Ⅱ遺跡（197）、小田ノ沢Ⅰ遺跡（200）、南鹿塚Ⅰ遺跡（206）、板橋Ⅱ遺跡（221）があり、南川尻遺跡は後葉、それ以外は前葉のものである。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡（21）、大平遺跡（32）、ニサクドウ遺跡（58）、戸類家遺跡（61）、田ノ沢遺跡（63）などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度、岩手県遺跡台帳作成調査において、太平洋戦争中、開墾の際には多数の土器が出土していたが、その後植林されており包含層は良好で、重要な遺跡であるとの報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年（1957）に慶応義塾大学名譽教授江坂輝彌氏による発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土し、現在、慶応義塾大学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年（1932）には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島鶴郎氏が旧種市町を訪れており、その時に採集された田ノ沢遺跡、八木貝塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホックリ貝塚（33）、八木貝塚（37）、小字内貝塚（40）、黒マッカ貝塚（41）がある。ホックリ貝塚からは当時、岩手県で初めて縄文時代の製塙土器が出土しており、久慈市の大芦Ⅰ遺跡で平成9年（1997）に発見されるまで、製塙土器が発見された県内唯一の遺跡であった。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和24年（1949）に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したとみられるが、製塙遺跡であった可能性がある。洋野町の故玉沢重作氏により製塙土器が発見され、その後、岡山大学名譽教授近藤義郎氏が、昭和35年（1960）同遺跡を調査し、土器の検討を行っている。このほか縄文時代の製塙土器は、ゴッソー遺跡の平成12年度（2000）岩手県埋蔵文化財センターによる本発掘調査でコンテナ1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡で採集された縄文時代の製塙土器片が多数収蔵されている。また、平成16年度（2004）の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡（182）より製塙土器片が縄文晩期の土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。遺跡の残存状況も良くないため詳細は不明であるが、位置から推測すると製塙を行った遺跡であることも考えられる。

弥生時代の遺跡として、大平遺跡（32）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）などがある。先述した平内Ⅱ遺跡では、平成25年度の調査で弥生時代前期後葉の堅穴住居跡が2軒検出されている。上水沢Ⅱ遺跡では弥生時代後期の堅穴住居跡が1軒検出され、土器がコンテナ約1箱分出土している。なお、西平内Ⅰ遺跡では、沈線間に交互刺突文を有する弥生時代後期の土器片が出土している。

古墳時代の遺跡については、三陸沿岸道路建設に伴う南鹿塚Ⅰ遺跡（206）の発掘調査において、7世紀の堅穴住居跡が検出されている。

また、袖山遺跡（38）においては、剣形の石製模造品が表面採集されている。同品も故玉沢重作氏により発見されたもので、長さ4.2cm、最大幅1.5cm、厚さは最大で4mm、重さは3.6g、石材は北上山地が産出地の蛇紋岩で、色調は暗緑灰色である。茎の表現が簡略化された二等辺三角形に三角形を付加した形状で、全体が丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径2mmの穿孔があり、表面は鏽が表現されている。形状から5世紀後葉より古い可能性がある。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、現状は山林などで、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和28年（1953）に東北大大学伊東信雄教授が東

北地方の石製模造品の集成を発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。この石製模造品も、昭和58年（1983）に一戸町馬場平遺跡から発見されるまで、県内唯一のものであった。

奈良・平安時代の遺跡として、城内遺跡（11）、ニサクドウ遺跡（58）、八森遺跡（73）、鹿糠浜II遺跡（197）、サンニヤII遺跡（206）、などがある。サンニヤII遺跡では、三陸沿岸道路事業に伴い平成26年度（2014）・27年度（2015）の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の堅穴住居跡が3軒検出されている。また、国道45号線種市登坂車線整備事業に伴い、岩手県埋蔵文化財センターにより平成28年度（2016）に調査が行われた八森遺跡でも8世紀代の堅穴住居跡が1軒検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴壺、球胴壺、瓶、土師器壺が出土している。また、草間教授の報告書によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器壺が出土している。

なお、三陸沿岸道路建設に伴う上のマッカ遺跡（43）の発掘調査において、土師器と製塩土器を伴う堅穴建物跡が検出されている。また、床面からは2基の炉跡が検出されており、土師器の年代から10世紀後半～11世紀の製塩工房とみられる。

平安時代の製塩土器は、二十一平遺跡（69）でも出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機の掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度（2003）に新規登録された。製塩土器片、土製支脚片が多量に散布し、被熱したような円窓もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採集されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塩を行った可能性が高いが、保存状況は重機の掘削により一部破壊されていると考えられる。また、未登録の遺跡ではあるが、駒野智寛氏、相原淳一氏による古津波堆積層の調査に伴い海岸付近で採集された製塩土器もある。なお、古代の製塩土器は海岸から6.2kmの館野遺跡（207）でも採集されており、町内には縄文時代や古代の製塩土器、土製支脚を伴う遺跡が多く所在することが予想され、製塩遺跡の発見や製塩土器の資料の増加が見込まれる。

中世の遺跡として中世城館跡の分布調査が昭和59年（1984）に岩手県教育委員会により行われており、岩手県遺跡台帳には28遺跡が登録されているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市氏の居城である種市城跡が所在する。種市氏は中世～近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏（後の盛岡南部氏）の家臣である。『南部藩参考諸家系図』（以後系図）によれば、種市中務（実名不詳）が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村（軽米町）ならびに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のこととは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴繼の股肱の臣として中務が久慈備前らと名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直（初代盛岡藩主）から種市村ならびに傍村に600石を賜つたとある。『聞老遺事』によると、天正19年（1591）九戸政実の乱の際、信直方に属し18人の部下と鉄砲三挺、弓三張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年（1600）の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏（後の遠野南部氏）18代八戸政栄の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大坂夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年（1649）に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年（1587）に初代盛岡藩主信直から閉伊口村（久慈市）を賜り住んでいたが、天正17年（1589）に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡（16）と非常に立てこもったとされる山城の種市城跡（17）が登録されている。平城の種市城跡はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡は現在でも馬場屋敷、

的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城跡が位置する。

天正18年（1590）、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年（1627）に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配にあたったようである。

寛文4年（1664）9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文5年（1665）2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡41箇村、九戸郡38箇村、志和郡4箇村、都合83箇村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区画を用い、三戸郡には八戸郷・名久井郷・長苗代郷、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸郷、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、鉄産業、造船業などがあり、特に製鉄業は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である目付所日記、勘定所日記、民間の史料では晴山家文書、沢尻家文書、西町屋（石橋）文書などがあり、様相を知ることができる。

製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれて、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保9年（1838）には、大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。晴山家文書の天保8年（1837）「寛政年中より拾書」は鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永7年（1778）に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和2年（1802）からは飛驒の浜谷（屋）茂八郎が引き継いだ。そして、文政6年（1823）には、鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保5年（1834）の百姓一揆後は、軽米の沢尻円右衛門が支配人を命じられ、天保9年（1838）からは江戸の美濃屋宗（惣）三郎（家臣名金子丈右衛門）へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として町指定史跡の有家台場（46）がある。目付所日記によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政3年（1791）に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たらせたようである。寛政5年（1793）の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、漆浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没記録がいくつかあるが、目付所日記によると文政8年（1825）有家浦の沖合15里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子をみせたので、弓・鉄砲衆など計34人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年（1854）八太郎・漆浦尻・館鼻・塩越・鮫・小船渡・有家・久慈湊に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場跡の現況は、八戸線の建設工事などで破壊されているものの、保存状況は概ね良好で、盛土造構の一部が残存している。

当町の特徴を示す製鉄関連の遺跡は、21箇所（旧種市町16箇所、旧大野村5箇所）登録されている。先述した七山の一つである大谷鉄山（26）は大谷地区にあり、鉄山操業により形成された集落とみられ、製鉄に関わった人々の子孫が多く居住している。製鉄関連の遺跡調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町5箇所、旧大野村35箇所の遺跡の所在を確認している。また、元野田村教育長、田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山跡12箇所の他、密銭場跡や鍛冶場跡など15箇所、旧大野村については製鉄関連の遺跡42箇所と鍛冶場跡を調査した結果の報告（1987「みちのくの砂鉄いまいずこ」）がある。鉄滓が採集される遺跡が少なくとも60箇所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になると考えられる。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査において南八木遺跡（201）で古代～中世の製鉄関連の遺跡が発

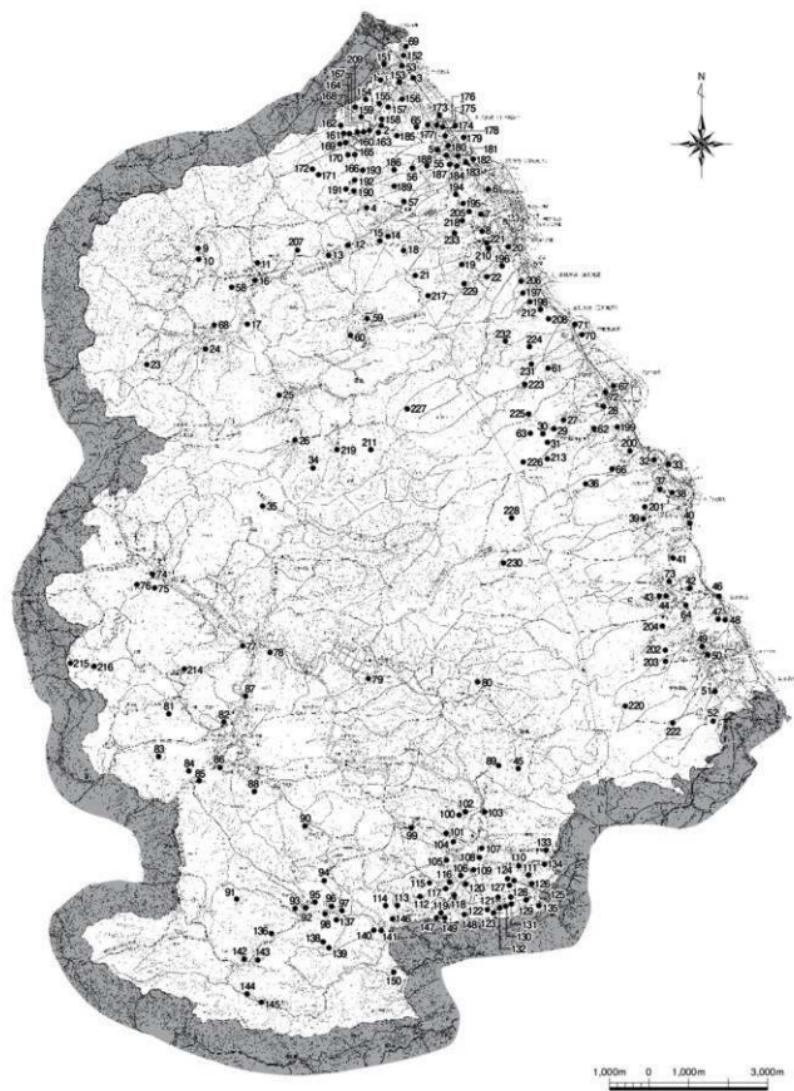
見された。少なからず近世以前のものも所在することが予想されるが、町内の製鉄関連遺跡を踏査された佐々木清文氏によるとほとんどが近世のもので、それ以前のものは所在しても少数であろうとのご教示をいただきている。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登録作業が必要である。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業については、八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山はなく、小規模な金山がいくつかあるのみとみられる。梅内家文書の慶安2年（1649）の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畠、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には金山跡として、小手野沢金山（14）、ノソウケ金山（23）の2遺跡が登録されている。

#### ＜引用・参考文献＞

- 伊東信雄 1953 「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第6輯』東北史学会  
草間俊一 1963 「種市の歴史（原始－中世）種市町諸遺跡の調査報告」種市町役場  
角川書店 1985 「角川 日本地名大辞典3 岩手県」  
岩手県教育委員会 1986 「岩手県中世城館分布調査報告書」岩手県文化財調査報告書第82集  
田村栄一郎 1987 「みちのくの砂鉄いまいすこ」  
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
1996 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集  
岩手県教育委員会 1998 「岩手の貝塚」岩手県文化財調査報告書第102集  
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
2001 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集  
岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
2002 「上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集  
岩手県種市町教育委員会 2004 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」種市町埋蔵文化財調査報告書第1集  
岩手県種市町教育委員会 2005 「種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ」種市町埋蔵文化財調査報告書第2集  
岩手県教育委員会 2006 「岩手の製鉄遺跡」岩手県文化財調査報告書第122集  
洋野町 2006 「大野村誌第二巻史料編1」大野村誌編さん委員会  
洋野町 2006 「種市町史第六巻通史編（上）」種市町史編さん委員会  
岩手県洋野町教育委員会 2013 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集  
岩手県洋野町教育委員会 2015 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集  
(公財) 岩手県文化振興事業団 2015 「平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡・下向遺跡・沼袋Ⅱ遺跡・沼袋Ⅲ遺跡  
八幡沖遺跡 ほか調査概報（39遺跡）」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集  
岩手県教育委員会 2016 「岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度復興関係）」岩手県文化財調査報告書第146集  
(公財) 岩手県文化振興事業団 2016 「平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡・房の沢IV遺跡・白石遺跡  
ほか調査概報（33遺跡）」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集  
岩手県洋野町教育委員会 2017 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集  
岩手県教育委員会 2017 「岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成27年度復興関係）」岩手県文化財調査報告書第149集  
交通省東北地方整備局三陸国道路事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2017 「西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集  
(公財) 岩手県文化振興事業団 2017 「平成28年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ遺跡・柄洞Ⅳ遺跡・八森遺跡  
ほか調査概報（28遺跡）」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集

- 岩手県教育委員会 2018「岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成 28 年度復興関係）」岩手県文化財調査報告書第 152 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2018「北鹿熊遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 686 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2018「サンニヤ I 遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 687 集  
（公財）岩手県文化振興事業団 2018「平成 29 年度発掘調査報告書 岩洞湖 I・II 遺跡 和野新里神社遺跡 北野 XIII 遺跡  
木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田 IV 遺跡 取扱 I 遺跡 千厩城遺跡 ほか調査概報（23 遺跡）」  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 692 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2019「南鹿熊 I 遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 697 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2019「上のマッカ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 698 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2019「小田ノ沢遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 699 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2019「施耕浜 II 遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 702 集  
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
- 2019「南八木遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 703 集



第2図 町内遺跡位置図

%	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備考
1	IP-35-1386	角浜	かのひま	柳市新42地割	國文	散布地	國文土器	別記❸ 4. 輪西史実(平成23年度)
2	IP-35-2996	伝吉Ⅰ	でんきいち	柳市新43地割	國文, 古代	散布地	國文土器(早・前・後期), 散布片石器, 磨石器 〔後半〕(平成23年度)	別記❸ 4. 伝吉遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
3	IP-38-1086	角川目Ⅰ	かどかわいちら	柳市新39地割	國文	散布地	國文土器(前・中・後期), 石斧, 磨石器 〔後半〕(平成23年度)	別記❸ 4. 角川森(アツキ森) 遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
4	IP-47-2334	千歳平	せんじだいら	柳市新48地割	國文	集落跡	國文土器(前・中・後期), 石棒 〔後半〕	別記❸ 4. 千歳平遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
5	IP-48-0170	平内Ⅰ	ひらないへいちら	柳市新34地割	國文	散布地	國文土器(前・中期), 散布片 〔後半〕	別記❸ 4. 平内遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
6	IP-48-4276	東面	ひのみだて	柳市新28地割	中世	城郭跡	城郭(破壊)	昭和59年度調査
7	IP-48-2224	横手	よこて	柳市新24地割	國文, 古代	散布地	國文土器(地盤), 土師器 〔後半〕	輪西史実(平成23年度)
8	IP-48-2263	トケの木	とちのき	柳市新21地割	國文	散布地	國文土器(後・後期)	別記❸ 4. トケの木(アシタケ) 遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
9	IP-56-0130	東巻	あさまき	柳市新59地割	國文, 強生	集落跡	國文土器(中期), 強生土器 〔後半〕	別記❸ 4. 東巻(アサマキ) 遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
10	IP-56-0370	八幡金斯(八幡御斎殿)	はちまんじんどうだて	柳市新63地割	中世	城郭跡	草葺, 墓跡 〔後半〕	昭和59年度調査, 八幡廟より名称変更(平成13年度)
11	IP-57-0068	M内Ⅱ	じょない	柳市新56地割	國文, 古代	集落跡	土師器瓦刷毛, 土師器 〔後半〕	別記❸ 4. M内(アシナガ) 遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
12	IP-57-0229	近衛御前(輪丸田)	あやしむだて	柳市新30地割	中世	城郭跡	城郭(破壊) 〔後半〕	別記❸ 4. 近衛御前(アヤシムダ) 遺跡から名称・範囲変更 〔後半〕(平成23年度)
13	IP-57-0264	那野原	なののだて	柳市新50地割	中世	城郭跡	城郭(破壊), 单孔 〔後半〕	昭和59年度調査
14	IP-57-0009	小手賀沢金山	こてのさわきんざん	柳市新51地割	近世	砂金採取跡	石原 〔後半〕	小手賀沢金山より名称変更(平成13年度)
15	IP-57-0317	土手原	どじだて	柳市新51地割	中世	城郭跡	城郭跡, 探査跡 〔後半〕	昭和59年度調査
16	IP-57-1023	桂城町(平城)	たねいじょう	柳市新60地割	中世	城郭跡	城郭跡 〔後半〕	昭和59年度調査
17	IP-57-2033	柳市城(山城)	たないじょう	柳市新60地割	中世	城郭跡	城郭跡, 平場 〔後半〕	昭和59年度調査
18	IP-56-0034	小手賀沢掘	こてのさわだて	柳市新51地割	中世	城郭跡	城郭跡, 平場 〔後半〕	昭和59年度調査
19	IP-56-0169	板鉢原	いたばしむだて	柳市新21地割	中世	城郭跡	单孔, 墓跡 〔後半〕	昭和59年度調査
20	IP-56-0341	ゴツツー	ごっそー	柳市新18地割	國文	墓跡, 犀牛頭跡 けいしゆずれ	空穴在土路, 肩・胸・火状 形埴燒, 人骨, 犀牛頭, 小石 器, 土器, 瓦, 瓦片, 瓦器 〔後半〕, 墓塗器, 強生土器, 強生瓦, 石器 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 平成6年度・12年度, 5年度本年度調査
21	IP-56-4006	たけの子	たけのこ	柳市新21地割	國文	散布地	國文土器(後・後期), 壁面剥離 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 平成6年度・12年度, 5年度本年度調査
22	IP-56-4205	大久保	おおくぼ	柳市新29地割	國文, 古代	散布地	國文土器(前・後・後期), 石斧, 土器 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 平成6年度・12年度, 5年度本年度調査
23	IP-66-0156	ノソウケ金山	のそうけきんざん	柳市新20地割	近世	砂金採取跡	石原 〔後半〕	昭和59年度調査
24	IP-66-0300	小学生(タチコ)	こがようだて	柳市新70地割	中世	城郭跡	〔後半〕	昭和59年度調査
25	IP-67-1131	和束原	わすげだて	柳市新71地割	中世	城郭跡	土器, 墓跡, 平場 〔後半〕	昭和59年度調査
26	IP-67-2146	大谷幽山	おおやしづづん	柳市新73地割	近世	製陶場遺跡	陶津 〔後半〕	八戸瀧大野村幽山
27	IP-69-1094	西ノ原Ⅰ	にしのひだいち	柳市新8地割	國文	散布地	國文土器(後・後期), 壁面剥離 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
28	IP-69-1157	宿ノ原	しゆくのへだて	柳市第7地割	中世	城郭跡	单孔, 墓跡, 平場 〔後半〕	昭和59年度調査
29	IP-69-2013	西の原	にののひだて	柳市第7地割	中世	城郭跡	土器, 墓跡, 平場 〔後半〕	昭和59年度調査
30	IP-69-3020	西ノ原Ⅱ	にしのひだに	柳市第7地割	國文	散布地	國文土器(後期), 石器, 土 器 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
31	IP-69-2041	上岡野	かみおかのや	柳市第7地割	國文	散布地	國文土器(後期) 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
32	IP-69-2388	太平	おおだいら	柳市新3地割	國文, 強生	集落跡	國文土器(早・後期), 強生土器 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
33	IP-69-2993	ホックリ貝塚	ほっくりかいづか	柳市第2地割	國文, 古代	貝塚	貝塚 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
34	IP-77-0291	織田鉢山	おりだべつざん	柳市新74地割	近世	製陶場遺跡	陶津 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
35	IP-77-3027	奥川鉢山	おくがわべつざん	柳市新73地割	近世	製陶場遺跡	陶津 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
36	IP-79-0123	小田の呂鉢山	こだのろべつざん	柳市新3地割	近世	製陶場遺跡	陶津 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
37	IP-79-0351	八木貝塚	やぎかいづか	柳市第1地割	國文	貝塚	國文土器(後期), 製陶 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
38	IP-79-0373	椿山	つばなやま	柳市第1地割	國文, 古墳	集落跡	國文土器(中・後期), 石器複数品(古墳時代) 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
39	IP-79-3245	長坂Ⅰ	ながさかひだい	小字内新1地割	國文	散布地	國文土器(後・後期), 散佈片 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
40	IP-79-3358	小字内其原	おこないせいづか	小字内新5地割	國文	貝塚	散佈片 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
41	IP-79-2444	黒マツカ貝塚	くろまっかかいづか	有家新2地割	國文, 古代	貝塚	國文土器(後期), 石器, 土 器 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
42	IP-79-0339	内割井	うちわい	有家第3地割	國文	集落跡	國文土器(後期), 石器 〔後半〕	別記❸ 1・❹ 10. 令和元年度
43	IP-79-04040	上のマツカ	うえのまっか	有家新5地割	中世	城郭跡	單孔, 墓跡, 墓 〔後半〕	別記❸ 22. 輪西史実(平成23年度), 27年, 29年本年度調査 〔後半〕
44	IP-79-0333	有家原	うげだて	有家新5地割	中世	城郭跡	單孔, 墓跡, 墓 〔後半〕	別記❸ 22. 輪西史実(平成23年度), 27年, 29年本年度調査 〔後半〕

第1表 町内の遺跡一覧 (1)

第1表 町内の遺跡一覧 (2)

%	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備考
92	JF05-2188	上本沢Ⅲ	かみみずさわい	水沢駅7地割	國文、弥生	集落跡	堅円柱形、石柱状生繩、土 器、打穴執事器、燒土壺 、陶設土器、燒土器(早~後 期)、生土器、土器片、石 器、骨器、西周~東周(後 期)、アラワット陶、陶器(近 現代)	別記2。昭和12年度発掘調査
93	JF05-2196	上本沢Ⅳ	かみみずさわいさん	水沢駅7地割	國文	散布地	國文土器	
94	JF05-2204	高森Ⅰ	たかもりい	水沢駅7地割	國文	散布地	國文土器	
95	JF05-2222	上本沢V	かみみずさわえん	水沢駅7地割	國文	散布地	國文土器	
96	JF05-2275	上本沢V(軒丸館)	かみみずさわご	水沢駅7地割	中世	城郭跡	平路	昭和59年度調査
97	JF05-2287	下本沢Ⅰ	しもみずさわいち	水沢駅8地割	國文	散布地	洞門	
98	JF05-2288	上本沢Ⅵ	かみみずさわくろ	水沢駅9地割	國文	散布地	國文土器	
99	JF06-0067	甲内	つづみない	大野町37地割	國文	散布地	國文土器	
100	JF06-0124	日当Ⅰ	ひのうちいち	大野町37地割	古代	散布地	土師器	
101	JF06-0186	下帶島Ⅰ	しもたいしまいち	豊島郡11地割	國文	散布地	國文土器	
102	JF06-0221	日当Ⅱ	ひのうたに	阿子本駆12地割	國文	散布地	國文土器	
103	JF06-0222	阿子本	あこぼん	阿子本駆12地割	國文	散布地	國文土器	
104	JF06-1103	下帶島Ⅲ	しもたいしまに	豊島郡11地割	國文	散布地	國文土器	
105	JF06-1156	軒丸館Ⅰ	えんまるかんい	帶島郡5地割	小世	城郭跡	平場、櫛塀	昭和59年度調査
106	JF06-1159	上帶島Ⅰ	じょうたいしまいち	豊島郡8地割	國文	散布地	國文土器	
107	JF06-1225	二ツ屋	ふたつや	阿子本駆16地割	國文	散布地	國文土器	
108	JF06-1254	下帶島Ⅱ	しもたいしまさん	阿子本駆16地割	古代	散布地	土師器	
109	JF06-1272	下帶島Ⅳ	しもたいしまよん	豊島郡9地割	國文	散布地	國文土器	
110	JF06-1375	二ツ屋内	ふたつやむちむ	阿子本駆12地割	國文	散布地	國文土器	
111	JF06-1396	長坂森Ⅰ	ちょうざくわい	阿子本駆12地割	國文	散布地	國文土器	
112	JF06-2008	高森Ⅲ	たかもりさん	豊島郡4地割	國文	散布地	國文土器	
113	JF06-2073	大酒Ⅱ	おおさけにまん	豊島郡1地割	國文	散布地	國文土器	
114	JF06-2081	大酒Ⅴ(軒丸館)	おおさけにご	豊島郡1地割	中世	城郭跡?	平汎、櫛塀	昭和59年度調査
115	JF06-2111	軒丸館	えんまるかん	豊島郡4地割	小世	城郭跡	平汎、櫛塀	昭和59年度調査
116	JF06-2117	開口Ⅰ	せきぐちい	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
117	JF06-2127	開口Ⅱ	せきぐちに	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
118	JF06-2144	上帶島Ⅲ	じょうたいしまに	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
119	JF06-2194	下帶島Ⅲ	しもたいしまさん	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
120	JF06-2211	上帶島Ⅴ	じょうたいしまよん	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
121	JF06-2269	舟原Ⅰ	ふねはらい	舟原	國文	散布地	國文土器	
122	JF06-2277	舟原Ⅲ	ふねはらさん	舟原	國文	散布地	國文土器	
123	JF06-2294	舟原Ⅴ	ふねはらご	舟原	國文	散布地	國文土器	
124	JF06-2303	舟原Ⅵ	ふねはらご	舟原	國文	散布地	國文土器	
125	JF06-2304	舟原Ⅶ	ふねはらごく	舟原	國文	散布地	國文土器	
126	JF06-2318	呂麻森Ⅲ	ろみづのもりに	阿子本駆12地割	國文	散布地	國文土器(後期)、漆	
127	JF06-2322	舟原Ⅸ	ふねはらく	舟原	國文	散布地	國文土器	
128	JF06-2363	舟原Ⅹ	ふねはらわ	舟原	國文	散布地	國文土器	
129	JF06-2385	舟原Ⅺ	ふねはらくみう	舟原	國文	散布地	國文土器	
130	JF06-2571	舟原Ⅻ	ふねはらくみく	舟原	國文	散布地	國文土器	
131	JF06-2573	舟原加	ふねはらじゅういち	舟原	國文	散布地	國文土器	
132	JF06-2384	舟原加Ⅱ	ふねはらじゅうに	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
133	JF06-1022	呂麻森Ⅲ	ろみづのりきん	阿子本駆12地割	國文	散布地	石瓶	
134	JF06-1051	呂麻森Ⅳ	ろみづのりよん	阿子本駆12地割	國文	散布地	國文土器	
135	JF06-2031	舟原Ⅲ	ふねはらさん	豊島郡7地割	國文	散布地	國文土器	
136	JF17-0140	上本沢Ⅲ	かみみずさわな	水沢駅9地割	國文	散布地	國文土器(後期)	
137	JF17-0218	下本沢Ⅲ	しもみずさわに	水沢駅9地割	國文	散布地	國文土器	
138	JF17-0266	三間部Ⅰ	さんまんぶ	水沢駅12地割	近世	製鉄関連	銅の羽衣、鐵津	
139	JF17-0267	金岡部Ⅱ	かなまきに	水沢駅12地割	近世	散布地	國文土器、土耕器 夏永通宝	
140	JF17-0357	大酒Ⅰ	おおさけにい	水沢駅10地割	國文	散布地	國文土器	
141	JF17-0359	大酒Ⅲ	おおさけにさん	水沢駅10地割	國文	散布地	國文土器	
142	JF17-1022	牛平Ⅰ	うしひらい	水沢駅2地割	國文	散布地	國文土器	
143	JF17-1024	牛平Ⅲ	うしひらさん	水沢駅2地割	國文	散布地	國文土器	

第1表 町内の遺跡一覧 (3)

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備考
144	JF17-2000	青葉城Ⅲ	あおなみに	水沢第14地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)	
145	JF17-2027	青葉城	あおなは	水沢第13地割	绳文	散布地	绳文土器、石器	
146	JF18-0002	大原里	おおわらりさん	那烏第3地割	绳文	散布地	绳文土器	
147	JF18-0103	帶島御所地	だいじょうごしち	那烏第2地割	绳文	散布地	绳文土器	
148	JF18-0108	帶島御所地	だいじょうごしち	那烏	绳文	散布地	绳文土器	
149	JF18-0116	帶島御所地	だいじょうごしち	那烏第7地割	绳文	散布地	绳文土器	
150	JF18-1052	大丸	おおまる	水沢第11地割	绳文	散布地	绳文土器	
151	JF17-1367	椎山中Ⅰ	しいやまちゅう	櫻市第41地割	绳文	散布地	石斧	別記4、平成23年度新規発見
152	JF17-1368	椎山中Ⅱ	しいやまちゅう	櫻市第41地割	绳文	散布地	绳文土器、葬跡	別記4、平成23年度新規発見
153	JF18-2001	角川郡Ⅲ	かくかわぐん	櫻市第29地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
154	JF18-2415	北ノ瀬Ⅰ	きたのせ	櫻市第42地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)	別記4、平成23年度新規発見
155	JF18-2536	桜井Ⅰ	さくわい	櫻市第43地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
156	JF18-2653	桜井Ⅱ	さくわい	櫻市第43地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)	別記4、平成23年度新規発見
157	JF18-2579	桜井Ⅲ	さくわい	櫻市第43地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
158	JF18-2367	桜花Ⅲ	さくはな	櫻市第43地割	绳文	散布地	绳文土器、石斧、鐵刃、鐵劍	別記4、平成23年度新規発見
159	JF18-2292	伝吉寺	でんきちじ	櫻市第43地割	绳文	散布地	绳文土器(前期)、石器	別記4、平成23年度新規発見
160	JF17-0229	伝吉寺Ⅲ	でんきちじ	櫻市第44地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
161	JF17-0238	伝吉寺Ⅳ	でんきちじ	櫻市第44地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
162	JF17-0216	伝吉寺Ⅴ	でんきちじ	櫻市第44地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
163	JF17-0405	北ノ瀬Ⅰ	きたのせ	櫻市第45地割	绳文	散布地	绳文土器(中期)、石器、削除品、石斧、石刀、削除測量	別記4、平成23年度新規発見、削除記載(式年:25年定期)、別記4、平成29年度新規発見
164	JF17-0333	北ノ瀬Ⅱ	きたのせ	櫻市第45地割	绳文、古代	散布地	绳文土器、土細器	別記4、平成23年度新規発見
165	JF17-0258	北ノ瀬Ⅲ	きたのせ	櫻市第45地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
166	JF17-0290	北ノ瀬Ⅳ	きたのせ	櫻市第45地割	绳文、古代	散布地	绳文土器(前期)、土細器	別記4、平成23年度新規発見
167	JF17-0404	北ノ瀬Ⅴ	きたのせ	櫻市第45地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
168	JF17-0401	北ノ瀬Ⅵ	きたのせ	櫻市第45地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
169	JF17-0257	北ノ瀬Ⅶ	きたのせ	櫻市第45地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
170	JF17-0299	北ノ瀬Ⅷ	きたのせ	櫻市第45地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
171	JF17-1250	北ノ瀬Ⅸ	きたのせ	櫻市第45地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
172	JF17-1118	北ノ瀬Ⅹ	きたのせ	櫻市第45地割	不明	駕籠開闢	鉄	別記4、平成23年度新規発見
173	JF18-2192	北平野Ⅰ	きたひら	櫻市第38地割	绳文	散布地	绳文土器、石斧、釋悲	別記4、平成23年度新規発見
174	JF18-0127	北平野Ⅱ	きたひら	櫻市第38地割	绳文、古代	散布地	绳文土器、土細器	別記4、平成23年度新規発見
175	JF18-0123	北平野Ⅲ	きたひら	櫻市第38地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
176	JF18-0121	北平野Ⅳ	きたひら	櫻市第38地割	绳文	散布地	绳文土器(前期)、洞片	別記4、平成23年度新規発見
177	JF18-0110	北平野Ⅴ	きたひら	櫻市第38地割	绳文、後世	散布地	绳文土器(後期)、石器、削除品	別記4、平成23年度新規発見
178	JF18-0143	北平野Ⅵ	きたひら	櫻市第38地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
179	JF18-0158	平内Ⅲ	ひらない	櫻市第26地割	绳文	散布地	绳文土器(早・中期)、石斧、削除	別記4、平成23年度新規発見
180	JF18-0174	平内Ⅳ	ひらない	櫻市第25地割	绳文、古代	散布地	绳文土器(前中期)、石斧、削除品	別記4、平成23年度新規発見
181	JF18-0197	平内Ⅴ	ひらない	櫻市第25地割	绳文	散布地	绳文土器(前中期)、石斧、削除	別記4、平成23年度新規発見
182	JF18-1200	南平野Ⅰ	みなみひら	櫻市第33地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)、削除	別記4、平成23年度新規発見
183	JF18-1119	南平野Ⅱ	みなみひら	櫻市第32地割	绳文	散布地	绳文土器、洞片石器	別記4、平成23年度新規発見
184	JF18-1126	南平野Ⅲ	みなみひら	櫻市第32地割	绳文	散布地	绳文土器、洞片	別記4、平成23年度新規発見
185	JF18-0041	西平野Ⅰ	にしひら	櫻市第37地割	绳文、弥生	集落遺跡	绳文土器(前中期)、石斧、石器、骨器	別記4、平成23年度新規発見
186	JF18-1040	西平野Ⅲ	にしひら	櫻市第22地割	绳文	散布地	绳文土器(前中期)、石器	別記4、平成23年度新規発見
187	JF18-1115	東平野Ⅰ	ひがし	櫻市第34地割	绳文	散布地	绳文土器、石斧、削除	別記4、平成23年度新規発見
188	JF18-1029	東平野Ⅱ	ひがし	櫻市第34地割	绳文	散布地	绳文土器	別記4、平成23年度新規発見
189	JF18-1080	東平野Ⅲ	ひがし	櫻市第34地割	不明	駕籠開闢	石器	別記4、平成23年度新規発見
190	JF17-1390	健足Ⅰ	うばさき	櫻市第47地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)、石斧、石器、削除	別記4、平成23年度新規発見

第1表 町内の遺跡一覧 (4)

%	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺物・遺物	備考
191	IP47-1288	越沢生	うばさわに	横市第47地割	國文、古代	散布地	陶文土器、石斧、土器部	別記番号4、平成23年度新規発見。
192	IP47-1360	越沢屋	うばさわさん	横市第47地割	國文	散布地	陶文土器(前・後期)、削刮器、石斧、碎片、古鏡	別記番号4、平成23年度新規発見
193	IP47-1342	越沢屋	うばさわよん	横市第47地割	國文	散布地	陶文土器(中期)、削刮器、瓦工芸スクリュー、碎片	別記番号4、平成23年度新規発見
194	IP48-1197	南川尻	みなみかわしり	横市第28地割	國文	集落跡 井戸跡	竪穴住居跡、土坑、竪穴式土器、土器部、石器	別記番号7・9・14、平成25年度新規発見。平成26年度・28年度本年度調査。
195	IP48-2128	サンニヤⅠ	さんにやいち	横市第25地割	國文	集落跡 井戸跡 散布地	竪穴住居跡、竪穴式土器、土器部、石器	別記番号9・14・36、平成25年度新規発見。平成27年度・28年度本年度調査。
196	IP58-0288	北窓跡	きたのまど	横市第18地割	國文	集落跡 井戸跡	竪穴住居跡、土坑、土器、陶文土器、石器	別記番号15、平成25年度新規発見。平成27年度・28年度本年度調査。
197	IP58-1354	北窓跡Ⅱ	きたのまどに	横市第15地割	國文、空古 不明	集落跡	竪穴住居跡(陶文、空古)、土坑、土器、陶文土器、瓦工芸、土器部、石器部、土器部	別記番号25、平成25年度新規発見。平成29年度本年度調査。
198	IP58-1299	南窓跡Ⅰ	みなみのまど	横市第15地割	國文、空古	集落跡	竪穴住居跡、土坑、柱穴、陶文土器、石器	平成25年度新規発見。範囲変更(平成27年度)、平成29年度本年度調査。
199	IP59-1199	相口	じょくのく	横市第6地割	國文	集落跡	陶文土器、石器	平成27年度新規発見。平成29年度本年度調査。
200	IP59-2273	小田ノ井Ⅰ	こだのいのい	横市第3地割	國文	集落跡	竪穴住居跡、土坑、柱穴、陶文土器、石器	別記番号23、平成25年度新規発見。平成28年度本年度調査。範囲変更(今和元年度)。
201	IP79-1217	南八木	みなみやぎ	横市第1地割	國文 古代～中世	散熱開溝 井戸跡	竪穴住居跡、土坑、猪生産遺構、廐場跡、竪穴道溝、土器、石器、柱穴、陶文土器、石器	別記番号6・15、平成25年度新規発見。平成29年度本年度調査。
202	IP79-1294	下向Ⅰ	しもむかいく	小野第1地割	國文、古墳	井戸跡	竪穴住居跡、土坑、陶文土器、土器部、石器、石器	別記番号7、平成25年度新規発見。平成29年度本年度調査。名称変更(今和元年度)。
203	IP79-2233	中野城内	なかのじょうない	中野第1地割	國文	井戸跡	竪穴住居跡、土坑、土器、石器	別記番号17、平成25年度新規発見。平成29年度本年度調査。
204	IP79-1322	黒坂	くろさか	有家第9地割	國文	集落跡	竪穴住居跡	別記番号8、平成25年度新規発見。平成35年度本年度調査。
205	IP48-2231	サンニヤⅡ	さんにやに	横市第25地割	國文、古代	集落跡	竪穴住居跡、土坑、竪穴式土器、土器部、石器	別記番号6・11、平成25年度新規発見。平成26年度・27年度本年度調査。
206	IP58-1333	南窓跡Ⅰ	みなみのまど	横市第16・17地割	國文、古墳	集落跡 井戸跡	竪穴住居跡(陶文、7.C.)、土坑、土器、陶文土器、土器部、土器部、土器部、石器、石器部	別記番号22、平成26年度新規発見。平成26年度・27年度・29年度本年度調査。
207	IP57-0174	原野	はらの	横市第53地割	古代	散布地	鉄鋤頭遺構	別記番号10、鉄鋤頭遺構。
208	IP59-2021	北玉川Ⅰ	きたたまがわい	横市第14地割	國文・近世	集落跡	陶文土器	平成27年度新規発見。平成29年度本年度調査。名称変更(今和元年度)。
209	IP57-2343	田ノ堀Ⅱ	たのほたに	横市第42地割	國文	集落跡	竪穴式土器、陶文土器、瓦	平成25年度新規発見。平成29年度本年度調査。
210	IP56-0245	東津内	あらつない	横市第20地割	國文	集落跡 井戸跡	竪穴式土器、土坑、土器、土器部、猪生産遺構、土器部、石器、碎片、动物遺存体(近代～現代)	別記番号24、平成28年度新規発見。平成29年度本年度調査。
211	IP57-2355	松ヶ沢Ⅰ	まつかがわい	横市第73地割	國文	散布地	土器、石器	平成28年度新規発見。
212	IP58-2312	重難浜Ⅱ	かなかはまさん	横市第15地割	國文	散布地	土器	平成28年度新規発見。
213	IP79-0012	続石	つづくいし	横市第4地割	國文、古代	集落跡 井戸跡	竪穴住居跡、土坑、土器、土器部、土器部、土器部、土器部	別記番号12、平成25年度新規発見。平成29年度本年度調査。範囲変更(今和元年度)。
214	IP76-2265	新田	しんでん	大野第14地割	近世	散熱開溝	土器	平成29年度新規発見。
215	IP55-2333	一本松内Ⅰ	いっぽんまつむかい	大野第15地割	國文、古代	散熱開溝	陶文土器、土器部、土器部	平成29年度新規発見。散熱開溝は時代不明。
216	IP76-2053	一本松内Ⅱ	いっぽんまつむかい	大野第15地割	國文、近世	散熱開溝	陶文土器、底盤	平成29年度新規発見。散熱開溝は時代不明。
217	IP58-1170	板壁Ⅰ	いたばしこい	横市第21地割	國文	井戸跡	竪穴住居跡	平成29年度新規発見。名称変更(今和元年度)。
218	IP48-2250	サンニヤⅢ	さんにやさん	横市第25地割	國文	井戸跡	竪穴住居跡、陶文土器、石器	別記番号14、平成29年度本年度調査。
219	IP57-2265	松ヶ沢Ⅱ	まつかがわに	横市第74地割	不明	散熱開溝	土器	平成29年度新規発見。
220	IP59-0251	下向Ⅱ	しもむかいく	小野第1地割	國文	井戸跡	竪穴住居跡、土坑、土器、土器部、石器、石器部、陶器	別記番号19、平成30年度新規発見。今和元年度本年度調査。範囲変更(今和元年度)。
221	IP58-0234	板壁Ⅱ	いたばしこい	横市第25地割	國文	集落跡	竪穴住居跡、土坑、土器、土器部、石器、石器部、陶器	今和元年度新規発見。今和元年度本年度調査。
222	IP59-0384	足沢	しのくざわ	中野第7地割	田石器、國文 古代	散布地 井戸跡	竪穴住居跡、土坑、ビット、陶文土器(IV・後期)、石器、石器部、石器部	別記番号19、平成30年度新規発見。今和元年度本年度調査。

第1表 町内の遺跡一覧 (5)

%	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺物・遺物	備考
223	IP98-0095	東玉川 I	みなみたまがわい・ち	横市第 11 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構、土坑、不明土器	令和元年度新発見見、令和元年度本発 掘調査
224	IP98-0096	東玉川 II	みなみたまがわに	横市第 11 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構、土坑、不明土器、 骨灰地	令和元年度新発見見
225	IP98-1386	西ノ瀬家 I	にしのせけい・ち	横市第 10 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構、土坑、不明土器、 鐵土器、骨灰土器、骨灰土器、石器	令和元年度新発見見
226	IP98-2294	馬場 I	ばばに	横市第 7 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構、土坑	令和元年度新発見見
227	IP98-1045	東玉川 III	みなみたまがわさん	横市第 11 地割	奈良、平安	墓葬跡	輪し穴状遺構、木棺葬跡、 土棺	令和元年度新発見見
228	IP78-1351	小田ノ沢Ⅲ	こだのさわに	横市第 3 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構、縄文土器	令和元年度新発見見、令和元年度本発 掘調査
229	IP78-1129	坂越Ⅲ	いそばしづかん	横市第 2 地割	縄文	住居跡	遺灰土坑、縄文土器、石器	令和元年度新発見見
230	IP78-2209	長坂Ⅱ	ながさかに	小字新町 7 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構	令和元年度新発見見
231	IP98-0347	東玉川Ⅳ	みなみたまがわよん	横市第 11 地割	縄文	住居跡	土坑	令和元年度新発見見
232	IP98-2280	東玉川Ⅴ	きたたまがわに	横市第 14 地割	縄文	住居跡	輪し穴状遺構	令和元年度新発見見
233	IP78-0105	坂越Ⅳ	いそばしづかん	横市第 21 地割	縄文	住居跡	土坑	令和元年度新発見見

### 第 1 表 町内の遺跡一覧 (6)

（備考欄の文献について、それぞれ次のように略した）

「※ 1」 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996・2001 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 238 集・第 357 集

「※ 2」 岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2002 「上水沢 II 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 391 集

「※ 3」 岩手県種市町教育委員会 2004 「平内 II 遺跡発掘調査報告書」 種市町埋蔵文化財調査報告書第 1 集

「※ 4」 岩手県種市町教育委員会 2005 「種市町内遺跡詳細分布調査報告書 1」 種市町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

「※ 5」 岩手県洋野町教育委員会 2013 「平内 II 遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 1 集

「※ 6」 岩手県洋野町教育委員会 2015 「平内 II 遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

「※ 7」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2015 「平成 26 年度発掘調査報告書 南川尻遺跡 下向遺跡 沼袋 II 遺跡

沼袋 III 遺跡 八幡沖遺跡 ほか調査概報 (39 遺跡)」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 647 集

「※ 8」 岩手県教育委員会 平成 28 年 3 月 「岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成 26 年度 復興関係)」

岩手県文化財調査報告書第 146 集

「※ 9」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2016 「平成 27 年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡 房の沢 IV 遺跡

白石遺跡 ほか調査概報 (33 遺跡)」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 661 集

「※ 10」 岩手県洋野町教育委員会 2017 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 3 集

「※ 11」 岩手県教育委員会 平成 29 年 3 月 「岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成 27 年度 復興関係)」

岩手県文化財調査報告書第 149 集

「※ 12」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団

2017 「西平内 I 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 673 集

「※ 13」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2017 「平成 28 年度発掘調査報告書 岩洞湖 I 遺跡 桶洞 IV 遺跡 八森遺跡

ほか調査概報 (28 遺跡)」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 676 集

「※ 14」 岩手県教育委員会 平成 30 年 3 月 「岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成 28 年度 復興関係)」

岩手県文化財調査報告書第 152 集

「※ 15」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団

2018 「北鹿島遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 686 集

「※ 16」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団

2018 「サンニヤ I 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 687 集

「※ 17」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2018 「平成 29 年度発掘調査報告書 岩洞湖 I・II 遺跡 和野新照神社遺跡

北野 XII 遺跡 木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田 IV 遺跡 耳取 I 遺跡 千厩城遺跡

ほか調査概報 (23 遺跡)」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 692 集

「※ 18」 岩手県洋野町教育委員会 2019 「西平内 I 遺跡ハンドボーリング調査報告書」

洋野町埋蔵文化財調査報告書第 4 集

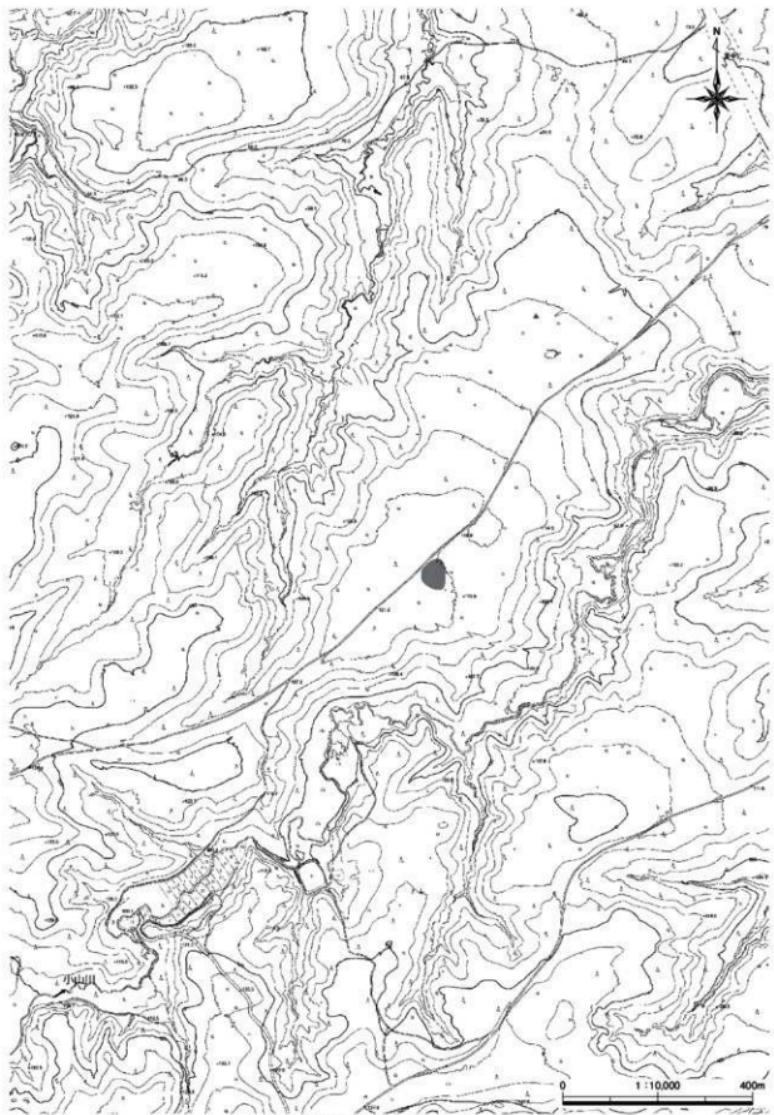
「※ 19」 岩手県洋野町教育委員会 2019 「下向 II 遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 5 集

「※ 20」 岩手県洋野町教育委員会 2019 「続石遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第 6 集

- 「※ 21」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2019「南鹿鷹 I 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 697 集
- 「※ 22」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2019「上のマッカ遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 698 集
- 「※ 23」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2019「小田ノ沢遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 699 集
- 「※ 24」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2019「荒津内遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 701 集
- 「※ 25」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2019「鹿鷹浜 II 遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 702 集
- 「※ 26」 国土交通省東北地方整備局三陸国造事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団  
2019「南八木遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 703 集

# 南玉川 I 遺跡





第1図 遺跡範囲図

## I. 遺跡の概要

南玉川Ⅰ遺跡は、洋野町種市第11地割地内、JR八戸線種市駅から南へ4.5km、宿戸漁港から西へ28km、北緯40°22'13"、東経141°43'15"を中心に位置する。未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、風力発電事業に伴い実施された埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。本遺跡の北東700mの位置には昭和32年に慶應義塾大学江坂輝彌氏によって発掘調査が行われた戸類家遺跡が所在する。

## II. 調査の概要

調査は、試掘調査で検出した遺構確認面まで重機で掘削し、鉄廉等を用いた人力で精査して遺構確認を行った。

検出した遺構は、半截や土層観察用のベルトを設定し掘り下げ、堆積状況を観察・記録した後に完掘を行い、平面図及び断面図等を作成した。土層の注記は『標準土色帖』に即して記録した。平面図は、測量CADシステム TREND - ONE（トレンド・ワン）を基本に、簡易造り方を併用しながら行った。

記録写真は、35mmデジタル一眼レフカメラを用いて撮影し、調査終了後、無人航空機（ドローン）による空中撮影を行い、調査区上空からの全景写真や部分写真、俯瞰撮影を行った。

調査対象地内に6箇所（A～E区）の小規模な調査区（15m×15m）を設定し、検出した遺構の状況により一部拡張して調査を行った。

調査区内に設定したグリッドは、平面直角座標第X系（世界測地系）に合わせて4m単位で設定した。

グリッド設定のために設置した基準点の成果は以下のとおりである。

基準点

N7-1 X = 41509.994 Y = 75333.183 H = 120.395m

N7-2 X = 41438.327 Y = 75402.927 H = 119.699m

N7-3 X = 41389.507 Y = 75352.760 H = 120.824m

N7-4 X = 41461.173 Y = 75283.017 H = 120.847m

A区（面積：225m<sup>2</sup> 検出遺構：SK1、SK2、TP1）

7A-1 X = 41491.261 Y = 75340.462

7A-2 X = 41480.314 Y = 75350.717

7A-3 X = 41470.059 Y = 75339.770

7A-4 X = 41481.006 Y = 75329.515

B区（面積：265m<sup>2</sup> 検出遺構：TP2、TP3、SP1、SP2）

7B-1 X = 41474.537 Y = 75332.997

7B-2 X = 41463.590 Y = 75343.252

7B-3 X = 41453.335 Y = 75332.305

7B-4 X = 41464.282 Y = 75322.050

C区（面積：225m<sup>2</sup> 検出遺構：なし）

7C-1 X = 41467.086 Y = 75369.212

7C-2 X = 41456.139 Y = 75379.467

7C-3 X = 41445.884 Y = 75368.520

7C-4 X = 41456.831 Y = 75358.265

D 区（面積：225m<sup>2</sup> 検出遺構：TP4）

7D-1 X = 41446.351 Y = 75380.477

7D-2 X = 41435.404 Y = 75390.732

7D-3 X = 41425.149 Y = 75379.785

7D-4 X = 41436.096 Y = 75369.530

E 区（面積：225m<sup>2</sup> 検出遺構：なし）

7E-1 X = 41419.439 Y = 75351.624

7E-2 X = 41408.492 Y = 75361.879

7E-3 X = 41398.237 Y = 75350.933

7E-4 X = 41409.184 Y = 75340.678

### III. 遺跡の土層序

南玉川 I 遺跡は、標高 120m 前後の段丘頂部に位置する。段丘面は、九戸段丘に相当すると考えられる。九戸段丘は、下位から九戸火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層が堆積する（松山 2013・2019）。

本調査の基本層序用の深掘トレンチでは、高館火山灰相当層の上部まで確認した。八戸火山灰層の上位層（I ~ III 層）は、下位から上位に向かって、南部浮石層（To - Nb）、中振浮石層（To - Cu）、十和田 b 降下火山灰層（To - b）、十和田 a 降下火山灰層（To - a）、白頭山 - 苛小牧火山灰層（B - Tm）が狭在するが、本遺跡では、それぞれの火山灰層は確認されなかった（第2図 写真図版 6）。

今回の調査で土層観察した結果の概要を記す。

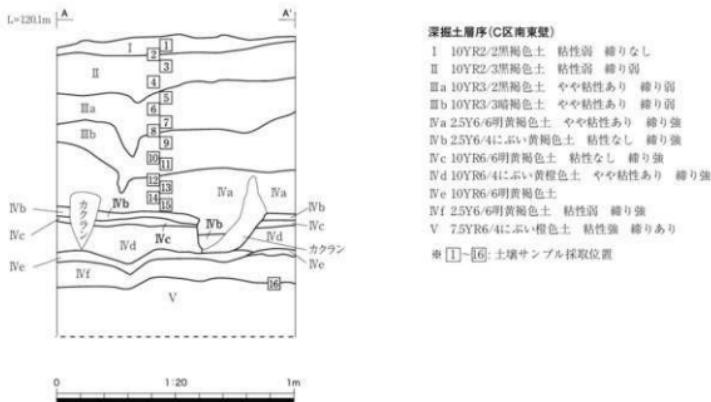
I 層は表土下部で腐食に富む黒褐色シルトである。粘性はなく、草木根を多量に含み繊りがない。

II 層は黒褐色シルトで、黄褐色土（10YR5/6）を斑状に少量含む。草木根も少量含み繊りが弱い。

III 層は黒褐色シルトが主体だが、IV 層上部（IV a 層）のブロックを斑状に含む。黒褐色土 II 層への漸移層で、III a 層と III b 層の 2 層に細分した。下位の III b 層は、IV a 層ブロックを多量に含む。

IV 層は八戸火山灰層で、下位から上位に I ~ VI 層に区分されている（大池・松山ほか 1970）。本調査区の深掘トレンチでも明瞭に 6 層に分層されたが、ここでは便宜上、上位から下位に IV a 層 ~ IV f 層と付した。なお、調査区の北側 A・B 区付近では、C 区深掘トレンチよりは II・III・IV 層は薄く、IV 層も明瞭に細分出来ない。

V 層はにぶい橙色（7.5YR6/4）を基調とした粘土質ロームである。上部の八戸火山灰降下直前の風化体部分に厚さ数mm の層状で部分的に炭化物が陥在する。この層は、高館火山灰層と考えられるが、多量の広域風成塵（中国大陆砂漠砂～黄砂）を含む風成層からなる粘土層という指摘がある（雁沢ほか 1994）。



第2図 深掘土層序

## IV. 深掘土層のテフラ分析

株式会社パレオ・ラボ

### はじめに

岩手県洋野町の南玉川I遺跡の発掘調査では、C区の深掘南東壁面でテフラが混在する土層が検出された。ここでは、これらの堆積物について、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、屈折率測定を行い、テフラ分析を行った。

### 1. 試料と方法

分析試料は、C区の深掘南東壁面から採取された堆積物である。地表下5~80cmにかけて、上から順に試料No.1~15までを5cmごとに採取した。地表から深度35cm(試料No.1~6)は黒色~暗褐色の土壤である。深度35~65cm(試料No.7~12)は黒色~暗褐色の土壤で黄色~褐色の軽石混じり粘土ブロックが散在する。深度65~75cm(試料No.13~14)は褐色の粘土で軽石が混じる。深度75~105cmは明黄褐色の軽石混じり粘土と軽石の混ざらない粘土の互層である。試料15点のうち、テフラと思われる堆積物を含む層準を8点選んで分析対象とした(第1表)。

各試料を、以下の方法で処理した。

分析No.	試料No.	位置	特徴
1	7	C区深掘南東壁面	黒褐色(7.5YR 2/2)、黄色粒子(1mm)混じり土壌
2	8		暗褐色(7.5YR 3/4)、黄色粒子(1mm)混じり土
3	9		暗褐色(7.5YR 3/4)、黄色粒子(1mm)混じり土
4	10		暗褐色(7.5YR 3/4)、褐色塊混じり土
5	11		暗褐色(7.5YR 3/2)、黄色粒子(1mm)混じり土
6	12		暗褐色(7.5YR 3/3)、黄色粒子(1mm)混じり土
7	13		褐色(7.5YR 4/6)、軽石(3mm)混じり凝灰質粘土
8	15		明黄褐色(7.5YR 5/6)、軽石(2mm)混じり凝灰質粘土

第1表 テフラ試料の詳細

湿潤重量6.58~21.12gを秤量した後、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)、4.5φ(0.044mm)の5枚の籠を重ね、湿式篩分けをした。

4φ篩残渣(分析No.7、No.8)について、重液(テトラプロモエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物は、水浸の簡易プレバラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井(2003)の分類基準に従って、バブル型平板状(b1)、バブル型Y字状(b2)、軽石型楕円状(p1)、軽石型スポンジ状(p2)、急冷破碎型フレーク状(c1)、急冷破碎型塊状(c2)に分類した。

重鉱物は、封入剤レークサイドセメントを用いてプレバラートを作製し、斜方輝石(Opx)、単斜輝石(Cpx)、角閃石(Ho)、磁鐵鉱(Mg)を同定・計数した。

分析No.1、No.3、No.6、No.8の4φ篩残渣中の火山ガラスは、横山ほか(1986)に従って温度変化型屈折率測定装置(株式会社古澤地質製、MAIOT)を用いて屈折率測定を行った。

### 2. 結果

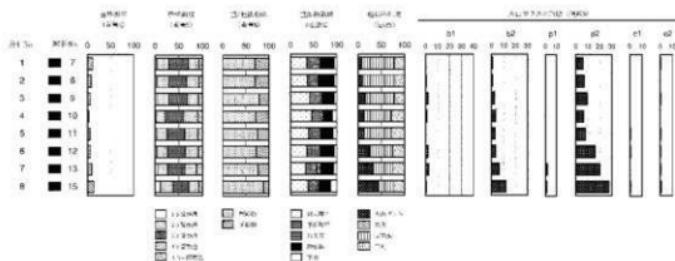
以下に、試料の特徴等、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、火山ガラスの屈折率測定結果について述べる。

#### [C区深掘南東壁面(分析No.1~8)]

試料は、分析No.1(試料No.7)黒褐色(7.5YR 2/2)の黄色粒子(1mm)混じり土壤、分析No.2~6(試料No.8~12)が暗褐色(7.5YR 3/3~3/4)の黄色粒子(1mm)または褐色塊混じり土壤、分析No.7(試料No.13)が褐色(7.5YR 4/6)の軽石(3mm)混じり凝灰質粘土、分析No.8(試料No.15)が明黄褐色(7.5YR 5/6)の軽石(2

分析 No.	処理重量 (g)	砂粒分の粒度組成(重量 g)					軽・重鉱物組成(重量 g)	
		1 φ	2 φ	3 φ	4 φ	5 φ	鉱物	重鉱物
1	15.39	0.13	0.93	1.47	0.83	0.26	0.16	0.07
2	11.36	0.09	0.62	0.93	0.64	0.19	0.16	0.07
3	9.50	0.09	0.47	0.75	0.49	0.06	0.15	0.04
4	6.58	0.02	0.19	0.40	0.30	0.10	0.15	0.06
5	9.00	0.05	0.27	0.62	0.47	0.16	0.12	0.04
6	10.17	0.07	0.44	0.69	0.52	0.16	0.18	0.07
7	16.84	0.17	0.60	1.06	0.74	0.35	0.19	0.06
8	21.12	0.49	1.18	1.44	0.95	0.31	0.22	0.03

第2表 テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果



第3図 深掘南東壁面試料の鉱物組成・火山ガラスの分布図

分析 No.	石英 (Qtz) (g)	長石 (Pl) (g)	不明 (Opx) (g)	火山ガラス				ガラス	合計	重鉱物						重鉱物 の合計		
				バブル(泡)型		軽石型	重石型			斜方輝石 (Opx)		斜方輝石 (Cpx)	角閃石 (Hs)	磁鉄鉱 (Mg)	カンラン石 (Opx)	不明 (Opx)		
				平板状 (h1)	Y字状 (n2)	繊維状 (pl)	スボンジ状 (g2)			フレーク 状 (c1)	塊状 (c2)							
1	2	175	54	1	2		15	1	19	250	89	70	1	76		14	250	
2	1	174	53	2	2		18		22	250	91	59	2	85		13	250	
3	2	156	55	5	6		24	2	37	250	104	67	3	63		13	250	
4		150	71	3	9	1	16		29	250	116	59	4	96		25	250	
5	1	147	69	1	8		21	2	1	33	250	99	64	8	61		22	250
6	2	126	65	5	9		40	2	1	57	250	90	70	7	69		14	250
7		107	62	7	16	5	50	1	2	81	250	82	60	20	71	1	16	250
8	1	80	60	2	30	3	69	2	3	109	250	96	47	11	64		32	250

第3表 4 φ 篩残渣中の鉱物組成

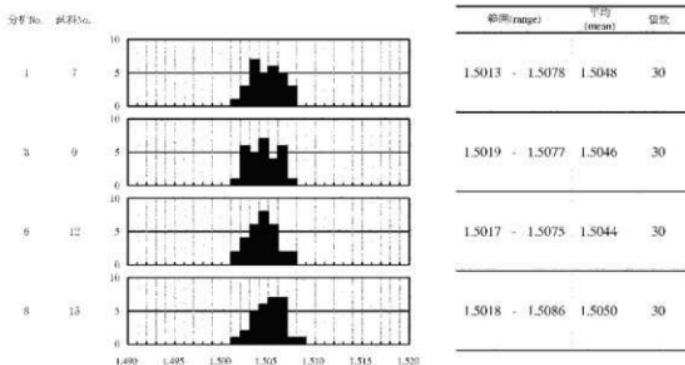
mm) 混じり凝灰質粘土である(第1表)。

粒度組成は、いずれの試料も3 φ 篩残渣が最も多い。重液分離では軽鉱物の割合が高い(第2表)。

軽鉱物は、いずれの試料も火山ガラスと長石(Pl)を多く含み、石英を少量伴う。

火山ガラスは、全体的に軽石型スボンジ状ガラスが特徴的で、バブル型火山ガラスなどを伴う。火山ガラスは、分析No.8(試料No.15)において最も多く、上位に向かって減少する。また、重鉱物は、いずれの試料も斜方輝石(Opx)が多く、单斜輝石(Cpx)や磁鉄鉱(Mg)も多く、角閃石(Hs)を少量含む(第3表、第3図)。

火山ガラスの屈折率測定では、分析No.1(試料No.7)が範囲1.5013-1.5078(平均1.5048)、分析No.3(試料No.9)が範囲1.5019-1.5077(平均1.5046)、分析No.6(試料No.12)が範囲1.5017-1.5075(平均1.5044)、分析No.8(試料No.15)が範囲1.5018-1.5086(平均1.5050)であった(第4図)。



第4図 各試料の火山ガラスの屈折率測定結果

### 3. テフラの対比

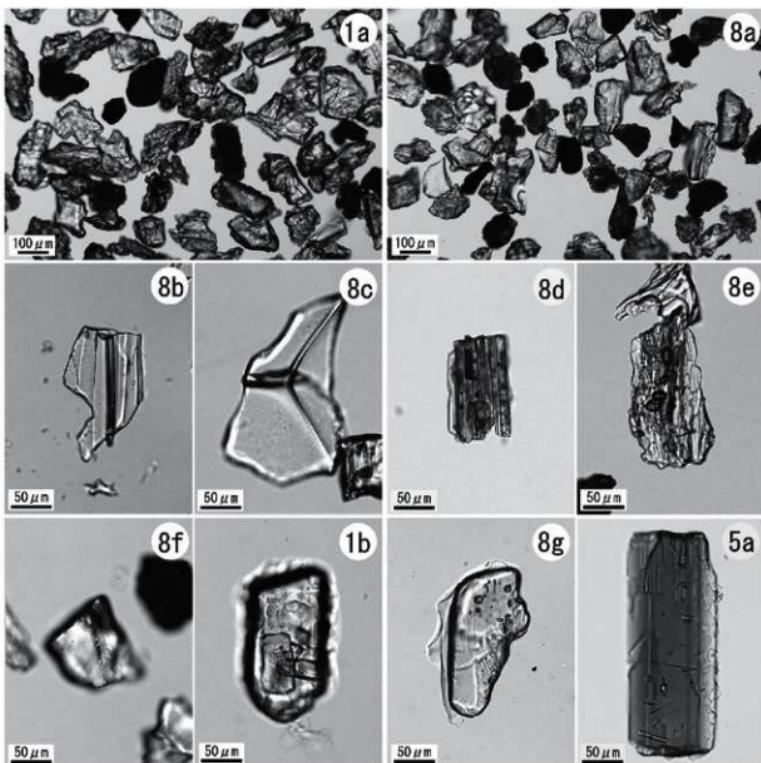
C区の深掘南東壁から採取された試料についてテフラ分析した。

No.8（試料No.15）の火山ガラスの屈折率が1.5018-1.5086であるため、十和田八戸テフラ（To-H, To-HP）と同定される。これより上位層に含まれる火山ガラスは、火山ガラスの含有率が減少するものの、軽石型ガラスとバブル型ガラスからなり、火山ガラスの屈折率がほぼ同じ範囲を示すことから、同様に十和田八戸テフラ（To-H, To-HP）と同定される。

十和田八戸テフラ（To-HP）は、十和田火山から15kaに噴出し、東側350km以上に分布する降下軽石（pfa）および降下火山灰（afa）からなる。同様に、十和田八戸テフラ（To-H）は、同心円状に50km範囲に分布する火砕流堆積物（pfl）および降下火山灰（afa）からなる。斜方輝石と單斜輝石、角閃石と少量の石英を含み、火山ガラスの屈折率が範囲1.502-1.509、斜方輝石の屈折率が範囲1.705-1.708である（町田・新井 2003）。谷口・川口（2001）では、千曳浮石層が十和田八戸テフラ（To-H, To-HP）の上位のテフラ層とされているが、町田・新井（2003）では、十和田八戸火砕流堆積物（To-H）、降下層部分は十和田八戸降下テフラ（To-HP）に対比されているが、その区分での位置付けは明確でない（谷口・川口 2001）。

#### （引用文献）

- 町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス、336p、東京大学出版会  
 谷口康浩・川口 潤（2001）長者久保・神子柴文化期における土器出現の<sup>14</sup>C年代・較正暦年代、第四紀研究、40、485-498。  
 横山卓雄・檀原 徹・山下 透（1986）温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定、第四紀研究、25、21-30



1a. 分析 No.1 (試料 No.7) 8a. 分析 No.8 (試料 No.15)

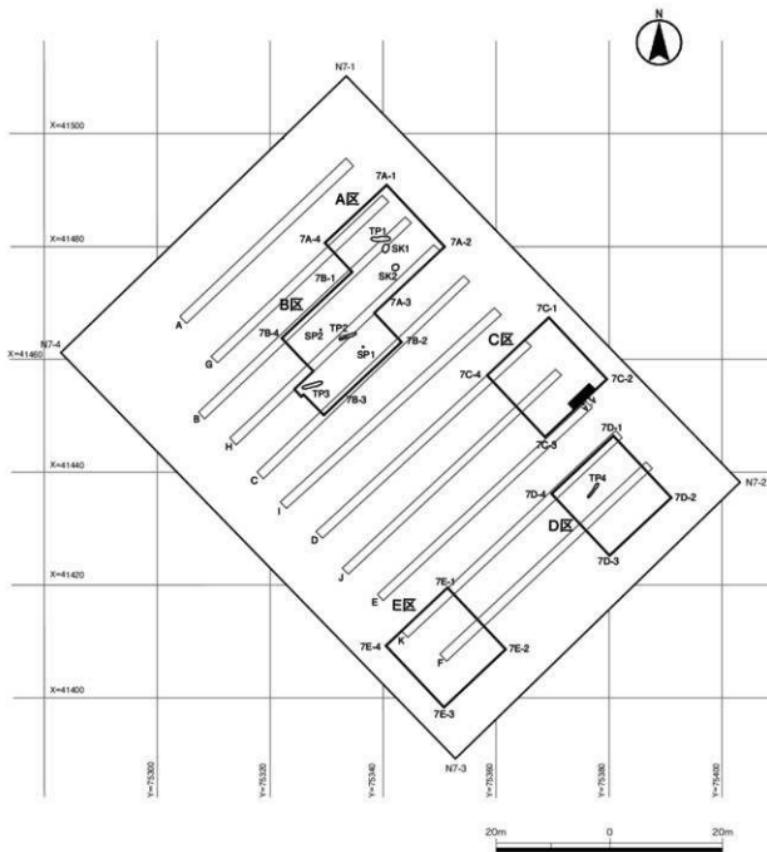
8b. バブル型平板状ガラス (分析 No.8) 8c. バブル型Y字状ガラス (分析 No.8)

8d. 軽石型繊維状ガラス (分析 No.8) 8e. 軽石型スponジ状ガラス (分析 No.8)

8f. 急冷破砕型フレーク状ガラス (分析 No.8) 1b. 斜方輝石 (分析 No.1)

8g. 単斜輝石 (分析 No.8) 5a. 角閃石 (分析 No.5)

写真図版 1 4 φ 残渣中のテフラ粒子の偏光顕微鏡写真



第5図 遺構配置図

## V. 調査の成果

### 1. 検出された遺構について

#### (1) 土坑

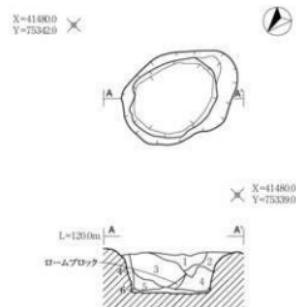
##### SK1 土坑（第6図 写真図版6）

A区のはば中央部に位置する。試掘調査のBトレンチ南東壁際、基本層序第IV層上面で、半円形の黒色プランを検出した。TP1と隣接する。平面形は、底部が104cm×90cmとはば円形だが、開口部は長径152cm×短径108cmと梢円形を呈する。底面はほぼ平坦で水平である。壁は外傾して立ち上がり、断面形は、逆台形を呈する。堆積土は暗褐色土を基調とし、6層に分層される。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

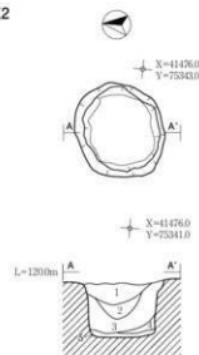
##### SK2 土坑（第6図 写真図版6）

A区の中央部より南東側に位置する。基本層序第IV層上面で、円形の黒色プランを検出した。SK1と隣接する。平面形は、開口部が120cm×114cm、底部90cm×84cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦で水平である。壁はほぼ直線的に立ち上がり、断面形は箱型を呈する。堆積土は暗褐色土を基調とし、5層に分層される。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

SK1



SK2



第6図 土坑 SK1・SK2

## (2) 溝状土坑

### TP1 溝状土坑（第7図 写真図版7）

A区のはば中央部に位置する。基本層序第IV層上面で、黒色の溝状プランがSK1と隣接して検出した。平面形は細長楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西方向に沿っており、N - 90° - Eを示す。規模は開口部で、長軸346cm、短軸90cm、底部長軸358cm、最深部で118cmを測る。長軸両側の壁は若干オーバーハンプで立ち上がるが、西側の壁の坑底部はやや袋状に抉りこまれている。短軸の断面形状は、Y字状を呈し、底面はほぼ水平で平坦である。堆積土は褐色土を基調とし、9層に分層される。上位の1層と下位の9層が黒褐色土で、自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

### TP2 溝状土坑（第7図 写真図版7）

B区のはば中央部に位置する。基本層序第IV層上面で、黒色の溝状プランを検出した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西方向に沿っており、N - 70° - Eを示す。規模は開口部で、長軸322cm、短軸56cm、底部長軸368cm、最深部で108cmを測る。長軸両側の壁はオーバーハンプで立ち上がる。短軸の断面形状は、Y字状を呈し、底面はほぼ平坦であるが、東側から西側に約10°傾斜している。西壁側が最も深く、東壁側が74cmと浅い。堆積土は褐色土を基調とし、8層に分層される。上位の1層と下位の7層が黒褐色土で、自然堆積の様相を示す。西側上場の一部が風倒木痕・木根等で搅乱されている。遺構内からの出土遺物はない。

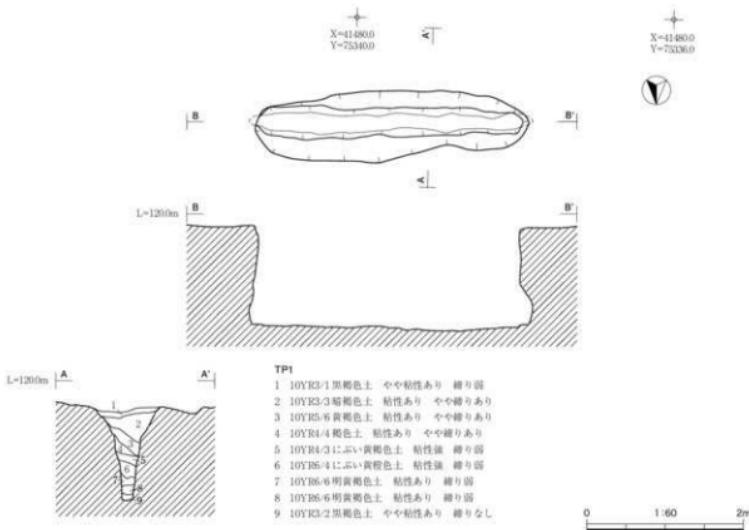
### TP3 溝状土坑（第8図 写真図版7）

B区のはば南端に位置する。南西壁際から基本層序第IV層上面で、黒色の溝状プランを検出し、約40m拡張して調査した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西方向に沿っており、N - 72° - Eを示す。規模は開口部で、長軸362cm、短軸68cm、底部長軸414cm、最深部で148cmを測る。長軸両側の壁はオーバーハンプで立ち上がる。短軸の断面形状は、Y字状を呈し、底面はほぼ水平で平坦である。堆積土は褐色土を基調とし、9層に分層される。上位の1層と下位の8層が黒色土及び黒褐色土である。自然堆積の様相を示す。調査区内から検出した遺構は、基本層序第IV層上面で確認されているが、壁際から検出した為、本来の掘り込み面が確認出来た。基本層序III層中で構築されていると考えられる。その為、本土坑だけ深くなっているが、いずれの土坑も同様と考えられる。遺構内からの出土遺物はない。

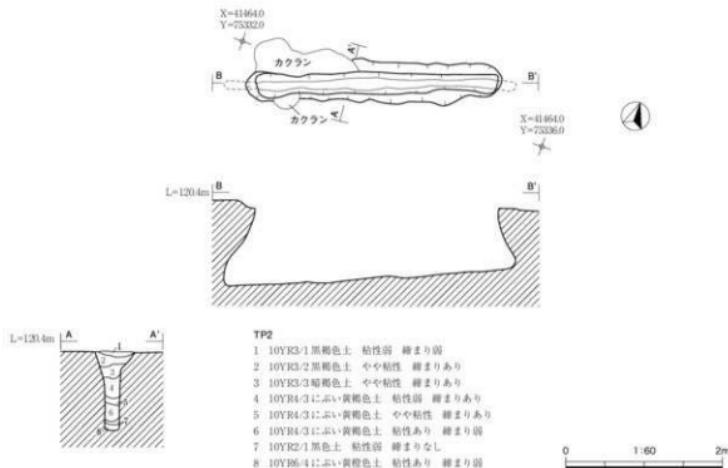
### TP4 溝状土坑（第8図 写真図版8）

D区の中央部からやや北西よりに位置する。基本層序第IV層上面で、黒色の溝状プランを検出した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はやや南北方向に沿っており、N - 35° - Eを示す。ほかの3基の溝状土坑とは主軸方向が異なる。規模は、長軸313cm、短軸52cm、底部長軸340cm、最深部で82cmを測る。長軸両側の壁はオーバーハンプで立ち上がる。短軸の断面形状はY字状を呈し、底面はほぼ平坦で水平である。堆積土は褐色土を基調とし、6層に分層される。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

TP1



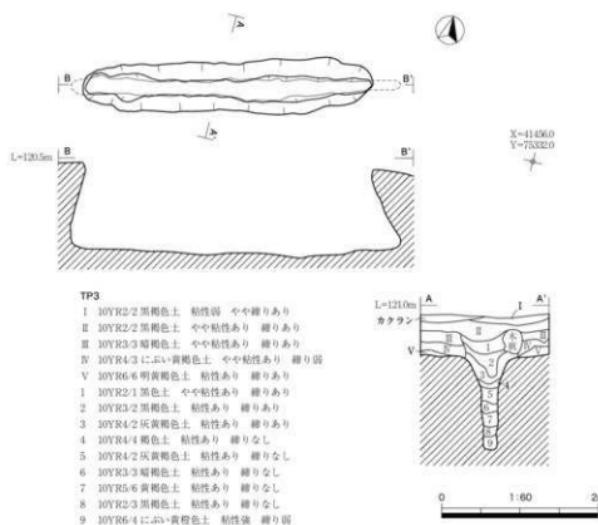
TP2



第7図 溝状土坑 TP1・TP2

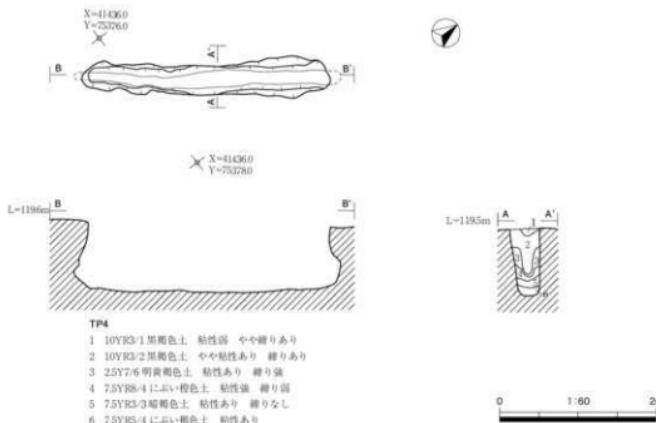
## TP3

X=41456.0  
Y=75321.0



## TP4

X=41436.0  
Y=75376.0



第8図 溝状土坑 TP3・TP4

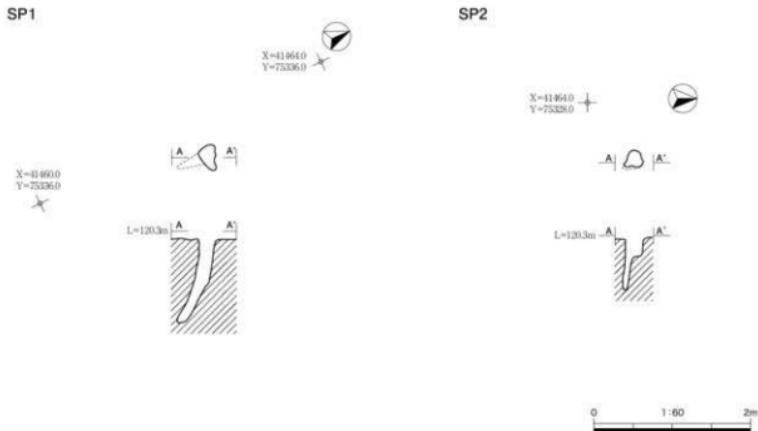
### (3) ピット

#### SP1 ピット (第9図 写真図版8)

B区の中央部よりやや東側に位置する。基本層序第IV層上面で、不整円形の黒色プランを検出した。平面形は、開口部が $32\text{cm} \times 24\text{cm}$ でやや三角形状を呈する。柱穴状の壁面が約5°の傾斜で60cm掘りこまれ、そこからさらに18°の傾斜で48cm掘りこまれている。深さは開口部から114cmと深く、土層観察は困難であった。堆積土は暗褐色土を基調とする。TP2の南東側に隣接する。遺構内からの出土遺物はない。

#### SP2 ピット (第9図 写真図版8)

B区の中央部よりやや西側に位置する。基本層序第IV層上面で、円形の黒色プランを検出した。平面形は、開口部が $24\text{cm} \times 20\text{cm}$ で不整円形を呈する。柱穴状の壁面が約7°の傾斜で64cm掘りこまれている。深さは開口部から72cmと深く、土層観察は困難であった。堆積土は暗褐色土を基調とする。遺構内からの出土遺物はない。



第9図 ピット SP1・SP2

## 2. まとめ

溝状土坑いわゆる陥し穴状遺構が確認されたことから、当遺跡は狩猟場跡であることが明らかとなった。

溝状土坑は4基検出され、そのうちTP1・TP2・TP3の3基は、長軸が東～西方向を示し、ほぼ直線状に並列している。それぞれの平面形態・長軸断面・短軸断面も類似し、開口部長軸はTP1(346cm)、TP2(322cm)、TP3(362cm)、開口部短軸は、TP1(90cm)、TP2(56cm)、TP3(68cm)と、規模も概ね類似している。深さ（最深部）は、TP1が118cm、TP2が108cm、TP3が148cmであった。TP3の深さは、調査区の南西境界で遺構端部が確認され、遺構開口部付近までの堆積状況を観察することができた。TP1・TP2の本来の深さはTP3と近似するものと考えられる。

### （引用・参考文献）

大池 昭二・松山 力・七崎 修 1970 八戸平原地区地質調査報告書 東北農政局

雁沢 好博 1994 西南海道～東北地方北部に広がる後期更新世の広域風成塵 地質学雑誌

雁沢 好博ほか 1995 石英粒子の天然熱螢光を利用したテフラ起源と風成塵起源堆積物の識別法

－上北平野、天狗岱面上の中期更新世の段丘堆積物を例として－ 地質学雑誌

松山 力 2013 「IV. 平内II遺跡の地学的環境」「平内II遺跡発掘調査報告書」

洋野町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第1集



遠 景



近 景

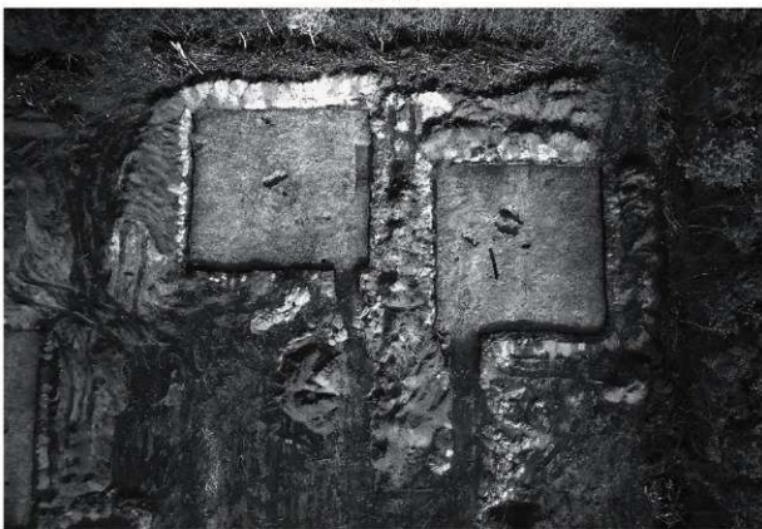
写真図版 2 遺跡遠景・近景



写真図版 3 調査区全景 (1)

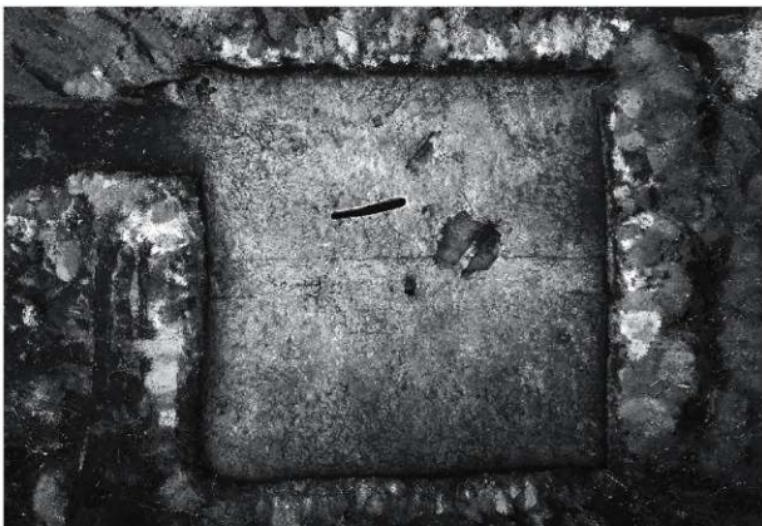


A区・B区



C区・D区

写真図版4 調査区全景(2)

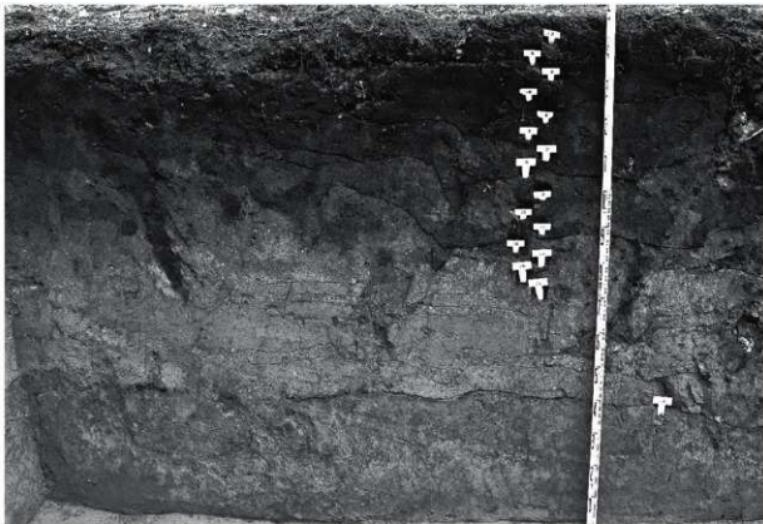


D 区



調査前近景

写真図版 5 調査区全景 (3)



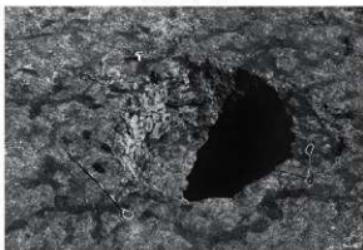
深掘土層序 (C区南東壁)



SK1 完 挖



SK1 断 面



SK2 完 挖



SK2 断 面

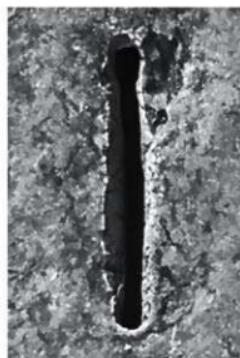
写真図版 6 深掘土層序・土坑 SK1・SK2



TP1  
完 挖



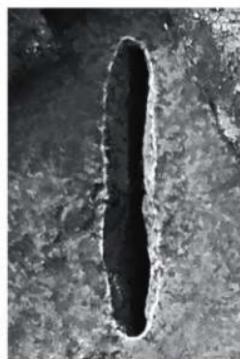
TP1  
断 面



TP2  
完 挖



TP2  
断 面



TP3  
完 挖



TP3  
断 面

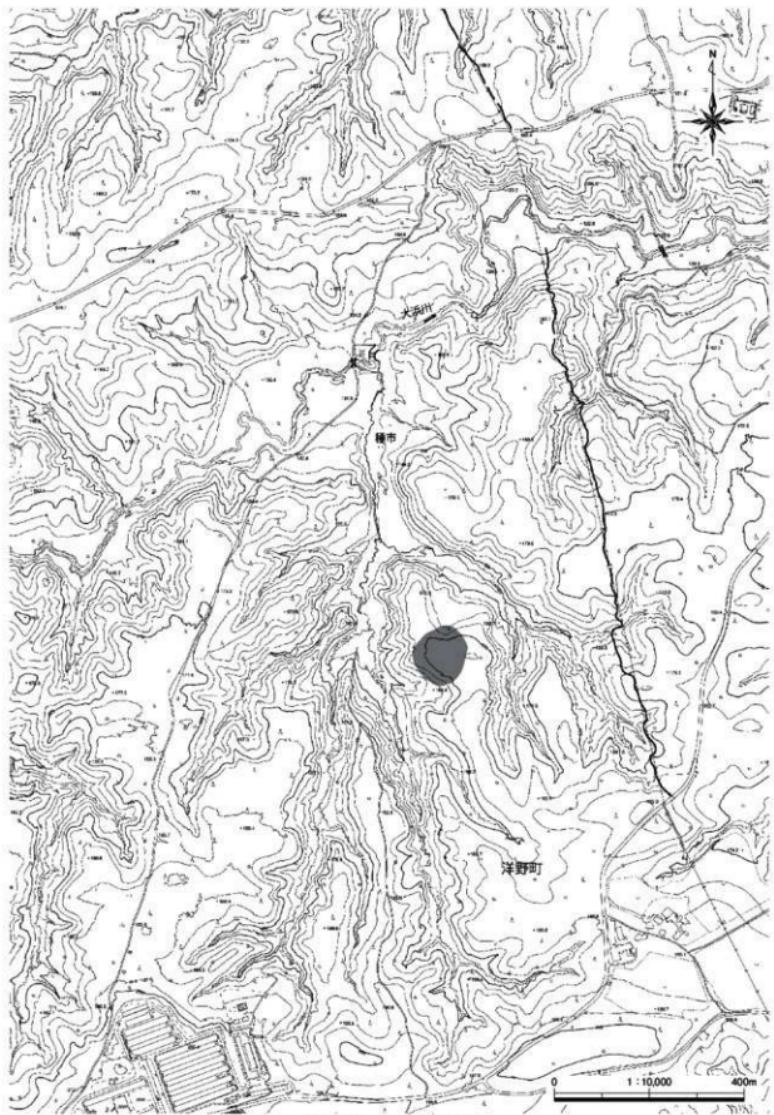
写真図版 7 溝状土坑 TP1 ~ TP3



写真図版 8 溝状土坑 TP4・ピット SP1・SP2

# 小田ノ沢Ⅱ遺跡





第1図 遺跡範囲図

## I. 遺跡の概要

小田ノ沢Ⅱ遺跡は、洋野町種市第3地割地内、JR 八戸線種市駅から南へ7.8km、八木港から南南西へ4.5km、北緯40° 20' 13"、東経141° 42' 52"を中心位置する。未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。本遺跡の北西3.6kmに小田ノ沢Ⅰ遺跡が所在する。同遺跡は三陸沿岸道路建設に伴う発掘調査が公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより行われ、縄文時代前期前葉と後期前葉の堅穴住居跡が発見されている。特に前期前葉の住居跡は12軒発見され、当該期の集落跡であることが明らかとなっている。

## II. 調査の概要

調査対象地内に検出した遺構を中心に小規模な調査区（15m × 15m）を設定した。

調査区内に設定したグリッドは、平面直角座標第X系（世界測地系）に合わせて4m単位で設定した。

グリッド設定のために設置した基準点の成果は以下のとおりである。

基準点

N23-1 X = 37870.614 Y = 74868.386 H = 175.594m

N23-2 X = 37796.022 Y = 74934.990 H = 177.033m

N23-3 X = 37749.399 Y = 74882.775 H = 175.216m

N23-4 X = 37823.992 Y = 74816.172 H = 174.859m

調査区（面積：225m<sup>2</sup> 検出遺構：TP1）

23A-1 X = 37800.913 Y = 74880.182

23A-2 X = 37800.913 Y = 74895.182

23A-3 X = 37785.913 Y = 74895.182

23A-4 X = 37785.913 Y = 74880.182

### III. 遺跡の土層序

小田ノ沢II遺跡は、標高170m前後の段丘頂部に位置する。段丘面は、九戸段丘に相当すると考えられる。

本調査の基本層序用の深掘トレンチは、八戸火山灰層の下位の層まで掘削した。八戸火山灰層の上部層（I・II層）は、下位から上位に向かって、南部浮石層（To-Nb）、中揮浮石層（To-Cu）、十和田b降下火山灰層（To-b）、十和田a降下火山灰層（To-a）、白頭山-苦小牧火山灰層（B-Tm）が狭在するが、本遺跡では、それぞれの火山灰層は確認されなかった。（第2図 写真図版4）

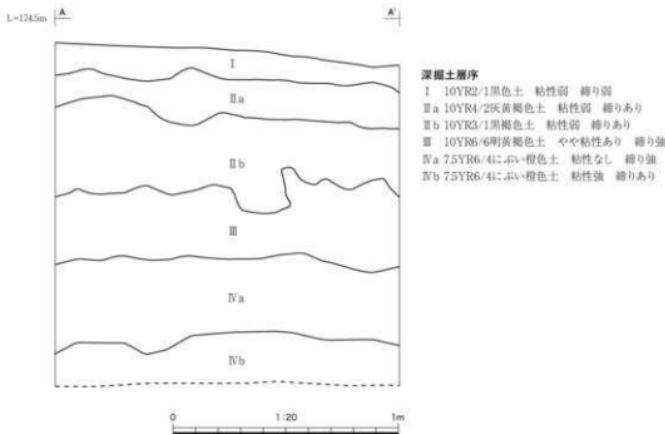
今回の調査で土層観察した結果の概要を記す。

I層は表土下部で腐食に富む黒色シルトである。粘性は弱く、草木根を多量に含み縮まりは弱い。

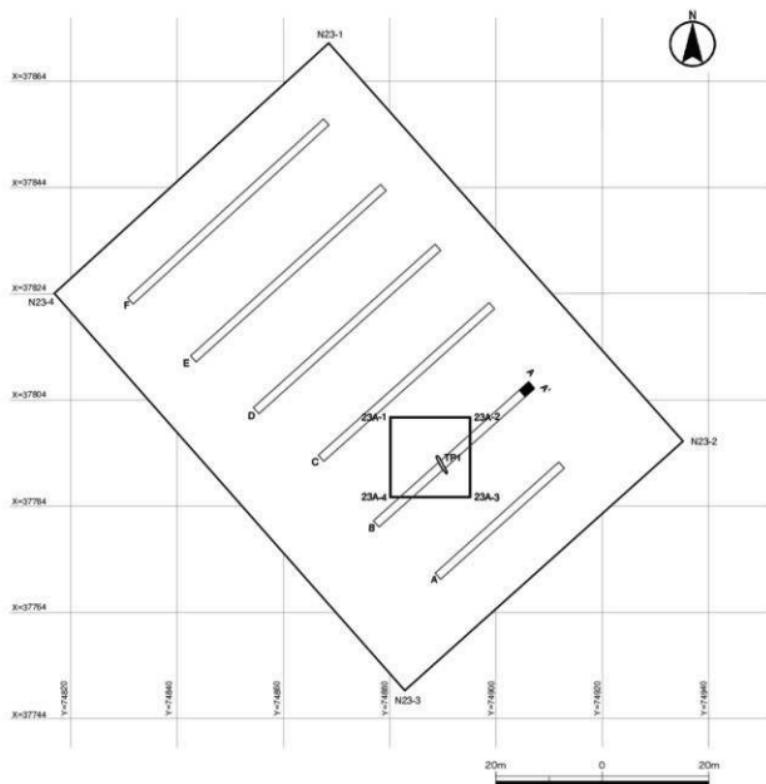
II a層は灰黄褐色シルトで、黄褐色土（10YR5/6）を霜降り状にやや多く含み縮まりがある。II b層は黒褐色シルトが主体だが、II a層への漸移層で、III層上部のブロックを斑状に含み縮まりがある。II b層下部とIII層上部は波状帶を呈している。

III層は八戸火山灰層と考えられるが、明瞭に区分（6層）されない。

IV a層・IV b層はにぶい橙色（7.5YR6/4）を基調とした粘土質ロームである。



第2図 深掘土層序



第3図 遺構配置図

## IV. 調査の成果

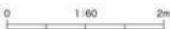
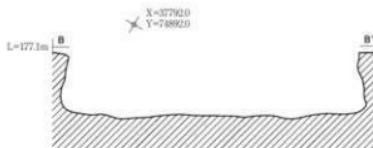
### 1. 検出された遺構について

#### 溝状土坑

##### TP1 溝状土坑（第4図 写真図版4）

調査区のはば中央部に位置する。基本層序第IV層上面で、黒色の溝状プランを検出した。平面形は、細長梢円形を呈し、長軸方向はやや南北方向に沿って N-29°-W を示す。規模は、開口部で長軸370cm、短軸54cm、底部長軸382cm、最深部で82cmを測る。長軸両側の壁は若干オーバーハングして立ち上がるが、西側の壁の坑底部はやや袋状に抉りこまれている。短軸の断面形状は、Y字状を呈し、底面はほぼ水平で平坦である。堆積土は褐色土を基調とし、8層に分層される。上位層の2層と下位の8層が黒褐色土である。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

TP1



第4図 溝状土坑 TP1

## 2. まとめ

溝状土坑いわゆる陥し穴状遺構が確認されたことから、当遺跡は狩猟場跡であることが明らかとなった。溝状土坑は1基のみの検出であり、遺構の密度は低いものとみられる。

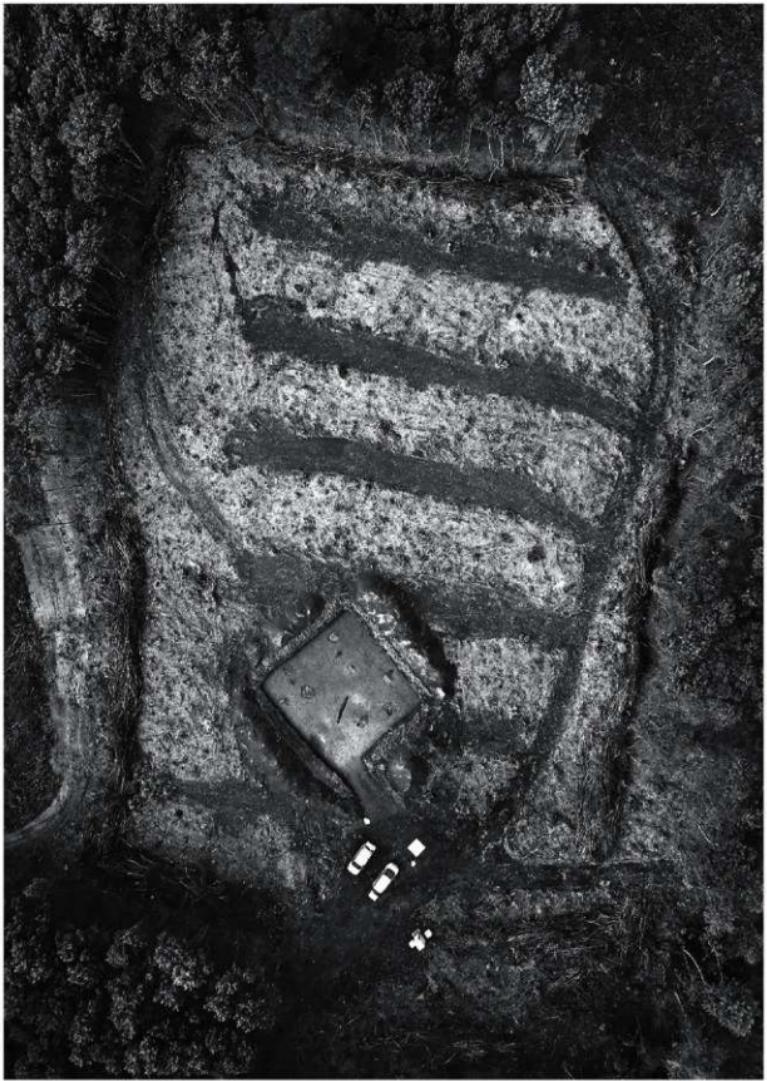


遠 景



近 景

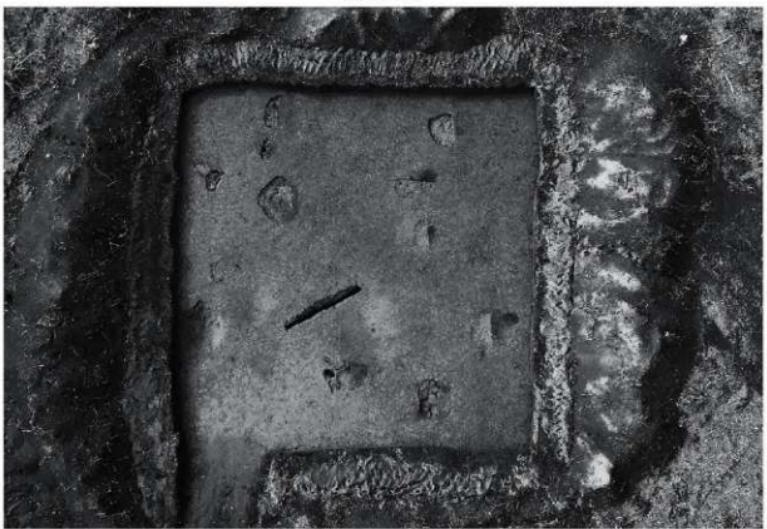
写真図版 1 遺跡遠景・近景



写真図版 2 調査区全景



調査前近景



調査後近景

写真図版3 調査区近景



深掘土層序



TP1  
完 挖



TP1  
断 面

写真図版 4 深掘土層序・溝状土坑 TP1

## 報告書抄録

ふりがな	みなみたまがわいちいせき・こだのさわにいせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書
副書名	風力発電事業に伴う遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	洋野町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第7集
編著者名	千田政博 田中寿明
編集機関	洋野町教育委員会 株式会社アーキジオ
所在地	〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市 23-27 TEL 0194-65-2111
発行年月日	2020年3月10日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
みなみたまがわいちいせき 南玉川Ⅰ遺跡	いわてけんくのへでん 岩手県九戸郡 ひののちょうとうおおひら 洋野町種市 かい ものりあざ 第11地割跡 みなみたまがわい ばん 南玉川 93 番 2	03507	IF68-0395	40° 22' 13"	141° 43' 15"	20190924 ～ 20191017	1,125m <sup>2</sup>	風力発電事業
こだのさわにいせき 小田ノ沢Ⅱ遺跡	いわてけんくのへでん 岩手県九戸郡 ひののちょうとうおおひら 洋野町種市 かい ものりあざ 第3地割跡 こだのさわ 81 番	03507	IF78-1351	40° 20' 13"	141° 42' 52"	20191018 ～ 20191024	225m <sup>2</sup>	風力発電事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南玉川Ⅰ遺跡	狩獵場跡	縄文時代	土坑 溝状土坑 ビット	—	
小田ノ沢Ⅱ遺跡	狩獵場跡	縄文時代	溝状土坑	—	

---

---

洋野町埋蔵文化財調査報告書第7集

## 南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

風力発電事業に伴う遺跡発掘調査

印刷 令和2年3月3日

発行 令和2年3月10日

発行 洋野町教育委員会

〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市23-27

TEL (0194) 65-2111

印刷 今野印刷株式会社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10

TEL (022) 288-6123

---

---